



016856-000-1

92-335

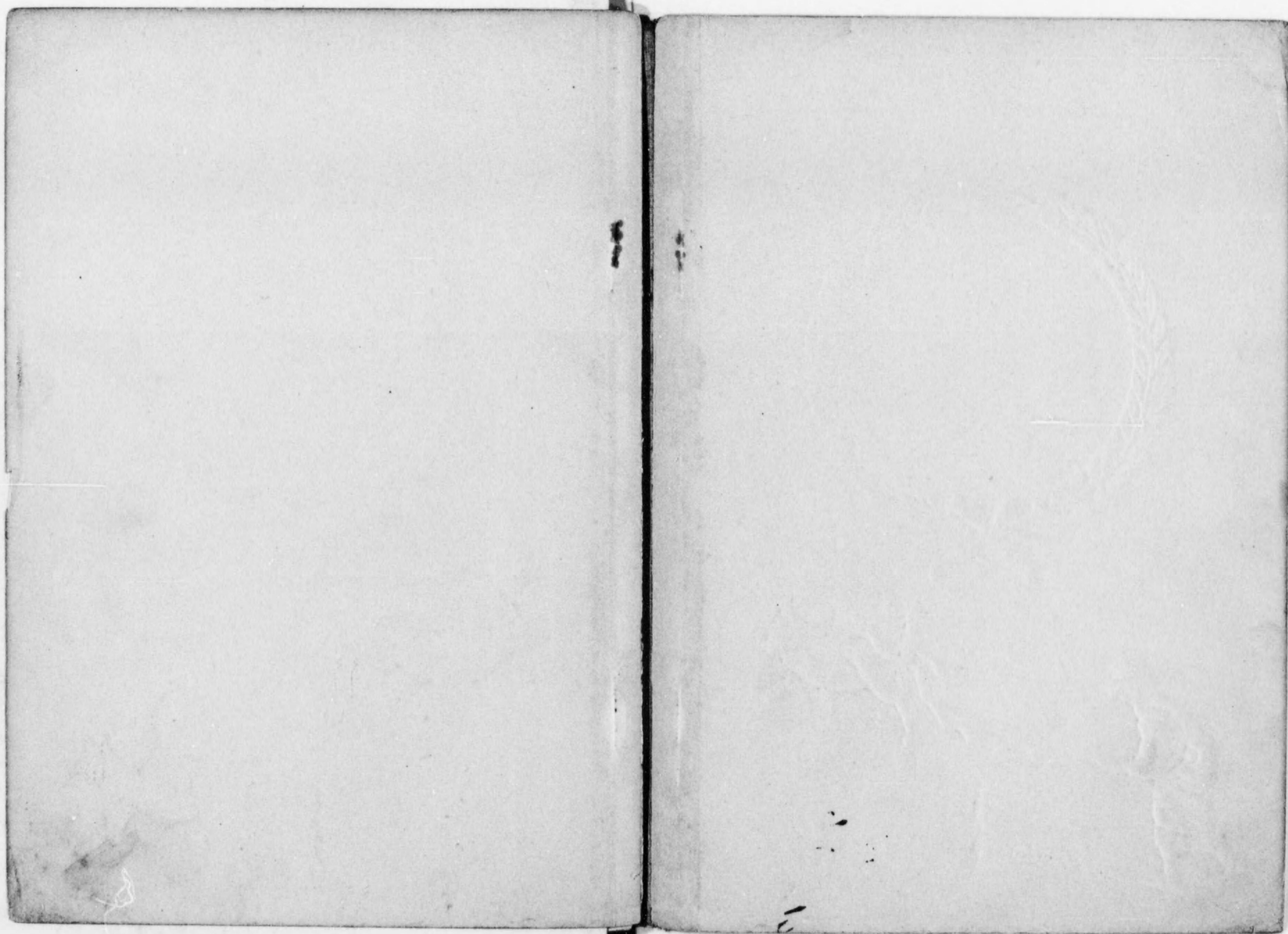
共進会と善光寺

田山 宗堯/編

M41.10

ABE-0070





は し ぐ さ

今回長野縣に一府十縣の聯合共進會開設せらるゝにつき親しく其地に蒞まるゝ人のために共進會と善

光寺と題する一小冊子を刊行することゝなせぬ、斯く題したるは共進會に臨む人は善光寺に賽すること

を缺きかたぐ善光寺に賽する人も共進會を忘るべからず互ひに離れがたき關係を持ちたればなり

然れど共進會も善光寺も之を詳かに説かんに能く小冊子の盡すべきにあらざれば此冊子は只其備忘

に充てざるに過ぎず、斯くて兩所に至りし人の信濃一國の名所舊跡をも訪ふべき暇あらばとて其名山

大川勝地五跡の概略を併せ載することゝなせぬ

信濃の國は我國にて最も古く最も大なる國の一つなり名山大川の他國に優れたるもの多きと勝地古

跡の所在は富めるとは之れ亦悉くを擧げがたし此には最も其顯はれたるを擇びしに過ぎず

文字を以て顯はすよりも其實景を寫真に顯はすこと簡便なり故に毎項必ず寫真を挿入して一覽其梗概

を知るに便にす、文字は寧ろ寫真帖の説明と見るこそよけれ

信濃一國の外に一府九縣の略説を添附したるは共進會と關係ある府縣の交通をも明かにすべき要あり

と思ひての業なり此より彼に行き彼より此に來る人々の備忘ともなるべき乎と思へど之も覺束なしと

云はゞ冊子の小にして盡しがたき爲めと免して尤め給ふな

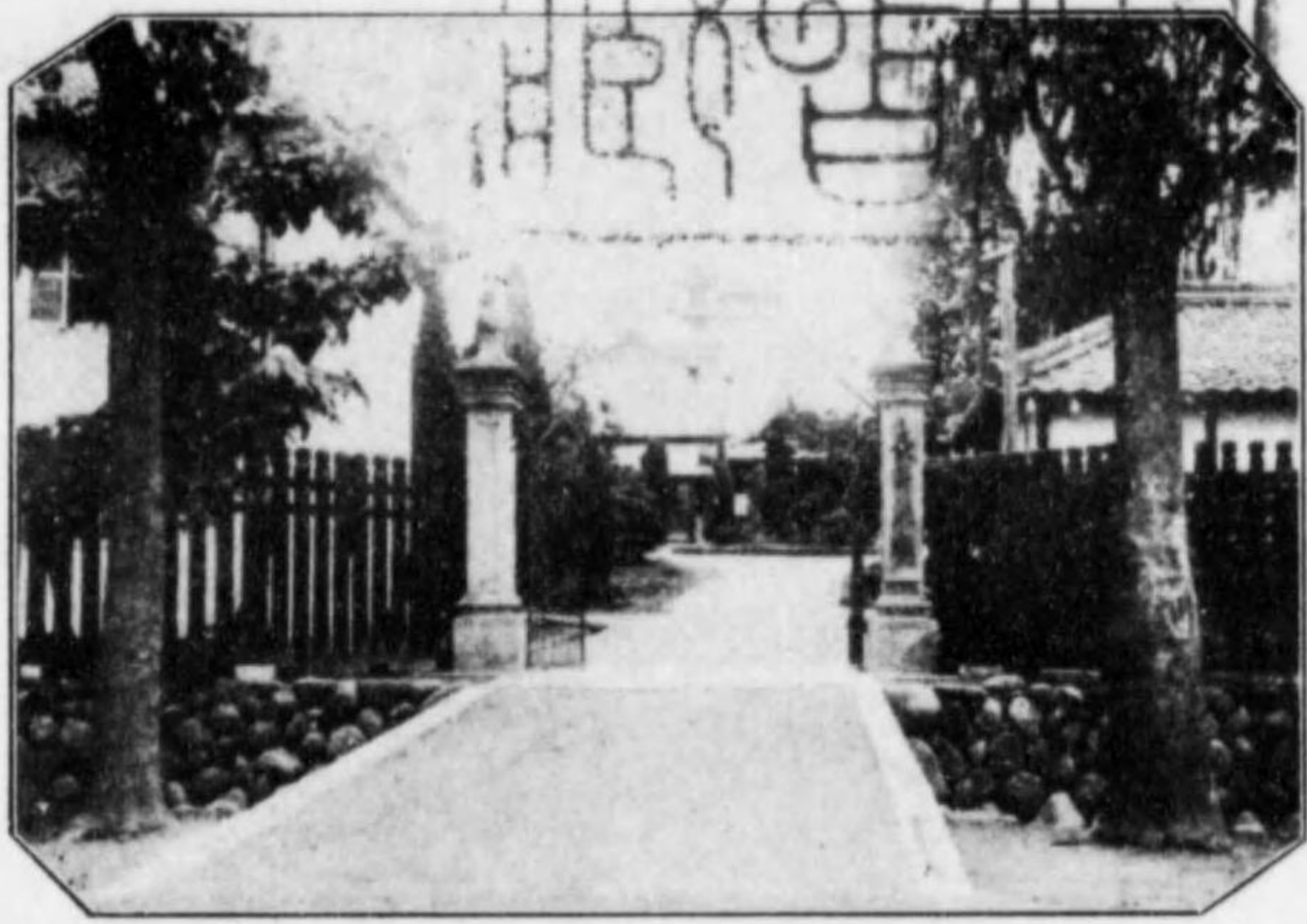
明治
41 10 22
内交

目次

長野縣と共進會	長野市と善光寺緣起	善光寺	古跡	園原の伏屋と笹木	木曾路	著名市街	松本市	高遠町	稻荷山町	上田町	神社	諏訪神社	山嶽	淺間山	御嶽山	御射山	河川	天龍川
川中島古戰場	御坂	飯田町	下諏訪町	篠の井	飯山町	生島神社	高妻山	八ヶ嶽	木曾川	千曲川	戸隠神社	駒ヶ嶽	千曲川	犀川	諏訪湖	鳥居川	野尻湖	烏居川
別所温泉	中野温泉	地獄谷温泉	山邊温泉	靈泉寺の湯	飯田城址	松本城址	上田城址	東京府誌	埼玉縣誌	茨城縣誌	山梨縣誌	高遠城址	飯山城址	小諸城址	神奈川縣誌	群馬縣誌	栃木縣誌	愛知縣誌
田澤温泉	湯田中温泉	澁温温泉	上諏訪温泉	其他五箇所	高島城址	松代城址	新瀉縣誌	千葉縣誌	愛知縣誌	鹽尻峠	和馬場峠	猿馬場峠	澁尻峠	角間温泉	淺間温泉	下諏訪温泉	杏掛温泉	

共進會と善光寺

長野縣と共進會



長野縣廳

長野は信濃國の首府なり信濃一國を管する長野縣は此に在りて一市十六郡を統治す治内の面積八百五十四方里に亘り我國に在りては第二の大縣なり人口百三十萬を有し殖産工業の道風に開け人文も亦他國に比して進みたれば中央首府東京に在りて巨富を積み若しくは重要な地位に昇りたるものも少なからず國內又名山大川に富み山には御嶽、駒ヶ嶽、八ヶ嶽及び赤石、乗鞍、戸隠、黒姫、鎗ヶ嶽等の外に淺間の活火山ありて文に作られ詩に歌はれたるもの多く川には木曾川、信濃川（源流に犀川、筑摩川あり）天龍川の三大川あり湖水には諏訪湖の天龍川を吐くありて神代よりして諏訪國の名顯はれたり交通の便は信越鐵道の要衝に當り縣治所在の長野市よりして南の方上州高崎を経て東京に至るものと北の方越後新潟に至るものと外に篠の井より分岐し鹽尻、諏訪、甲府を経て東京に至るべき中央東線あり

本年九月二十日より十一月十日に至るまで縣治所在地長野市に於て一府十縣即ち東京府、神奈川縣、新瀉縣、埼玉縣、群馬縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、山梨縣、愛知縣及び當長野縣の聯合共進會を開き左の出品を爲す

農産 蠶絲 林 水産 鑛工 畜産 特許品

又十月二十七日より十二日間、同じく一府十縣の馬匹共進會を開設す
兩共進會の詳細は別に書冊あれば此に略す

共進會と善光寺

長野市と善光寺縁起



長野市街

と稱す爾來十餘回の回祿に罹ると雖も四方の信仰いよ／＼厚く今の處に宏大無邊の大靈場を開くに至りしこと云ふ

古へに長野村あれど顯はれず善光寺ありて後に善光寺町を以て顯はる、その長野市を以て知られたるは明治維新の後に在り然れども長野市は今尚ほ善光寺ありて知られ長野市と善光寺は終に離るべからざるなり市の形勢は國の北部に位し東南は善光寺平の沃田に連り北方は山陵起伏の地を擁し市域は東西十二町、南北二十六町、行政區劃は凡て三十九區に分たれ現戸數六千六百、人口三萬七千を有す、市内に於ける官衙所在町名を舉ぐれば長野縣廳、稅務監督局、稅務署(以上立町)警察部(縣廳内)聯隊司令部、上水内郡役所、同農會事務所(以上縣町)警察署、市役所(以上若松町)地方裁判所、區裁判所(花咲町)郵便局(西後町)等なり

「善光寺は我國北邊第一の靈場なり當寺縁起の詳かなるは世に數書あれば此小冊子の盡すべきにあらざれど傳へ云ふ本尊彌陀如來は往古印度に於て釋迦牟尼佛自ら圓浮陀金を以て鎔化し給ひ後に百濟國に渡り我欽明天皇の御宇、日本に渡り朝廷の恭敬淺からざりしも敏達天皇の御宇に物部守屋等の排佛に依り難波の堀江に投棄せられしを推古天皇の十年信州伊奈の人本多善光と云へるもの堀江を過ぎて池中より此彌陀如來の出現し給ふに逢ひ感喜の餘り直に尊像を吞負ひ參らせ本國信濃の伊奈に歸へり之を我家に置きて尊信薄からざりしが後四十一年を経て水内郡内芋井の郷に一字を建て始めて善光寺

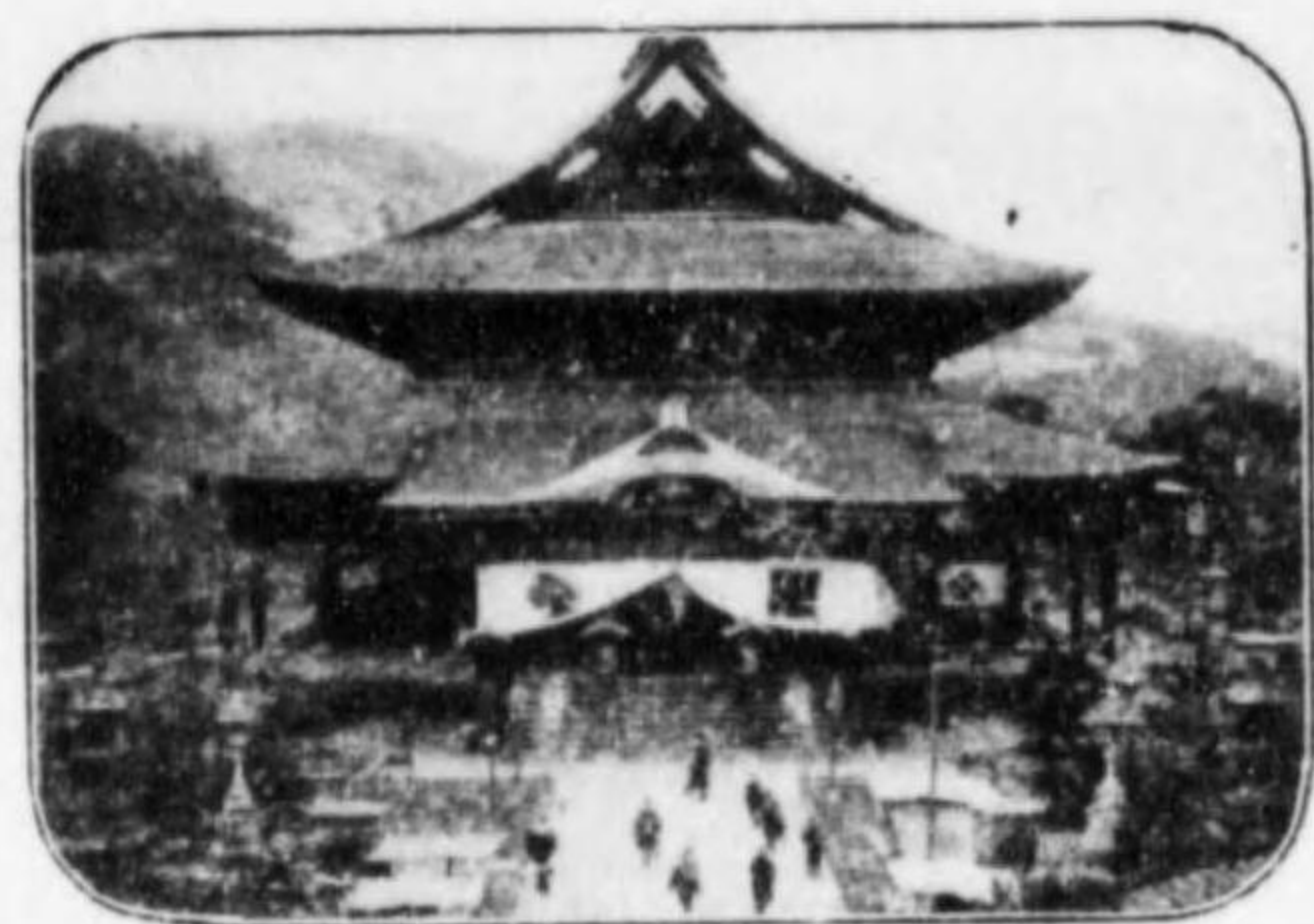
善光寺

善光寺 は市の北端に在りて境域の廣さ東西百四十七間、南北九十四間、面積一萬五千三百餘坪、本堂の外、境内には大勸進、大本願あり經堂あり萬善堂あり御供所あり鐘樓あり長野公園あり園内には花卉草木あり池亭あり球戯場あり其他優遊の具、備はらざるなく既に佛陀の靈場たる外、又人間の樂園なり

本堂 今の本堂は元祿十四年に工を起し寶水四年に至りて落成せしものにて高さ箱棟迄十丈二尺八寸四分、東西間口十七間〇七寸四分、南北奥行廿九間二尺七寸二分、本柱百卅六本、垂木八千八百十二本、此地坪五百三十坪餘、屋根坪數千五百坪餘と云ふ



大勸進



善光寺

共進會と善光寺

山門 高さ六丈六尺七分、桁行十一間一尺餘、梁間四間二尺四寸、延享年間の建設にかゝる

經堂 高さ四丈六尺二分、方六間三尺にて寶曆四年の建築に係る

鐘樓 寶曆二年の建立にして梵鐘は寛文七年の鑄造にかゝる

大勸進 別當大勸進は山門の西にあり宏麗なる建築にして池あり庭あり古松修竹、閑雅幽邃、曾て 今上陛下の行在所に當てらる

大本願 仁王門の西に在り、堂宇宏壯善光寺尼君の御座處なり

地震塚 世に善光寺の大地震と稱する弘化四年三月の大地震に壓死せるものを一纏として埋葬し供養の爲に此塚を築けるものなり

郊外 新倉山岩窟鬼掛石穴居跡天然瓦斯久米路の橋等尋ぬべし

古跡



姨捨山 更級郡に在り中央東線姨捨驛より僅かに三丁、昔より田毎の月と稱し觀月の勝地なり姨石と稱する五丈餘の岩あり之に依りて一寺を建て放光院長樂寺と號す満月堂、月見堂等あり此より見渡せば鏡臺山、冠著山等の勝景あり八幡の森、千曲川の眺望等皆絶景の處なり姨捨山の古事は大和物語に出で人の知る處なれば此に説かず川中島古戰場 川中島は犀、千曲兩川の間に挾まれたる地なるを以て其名あり天文年間武田信玄長尾景虎の兩雄が屢其武を輝せるより今に至りて其名を知らざる者なし附近に諸角豊後守、山本勘助等の墳墓あり御坂 景行帝の世日本武尊が信濃より美濃へ出で給ふ時、山の神の白き鹿となりて御前に立ちけるを蒜を嚼みてはじきかけ給ひし古跡なり園原の伏屋と幕木 又美濃に依りたる處に在り奥義抄に「しなの國の原ふせ屋といふ處に幕木のやうなる木の梢のよそにて見ゆる木の本へ



幕木

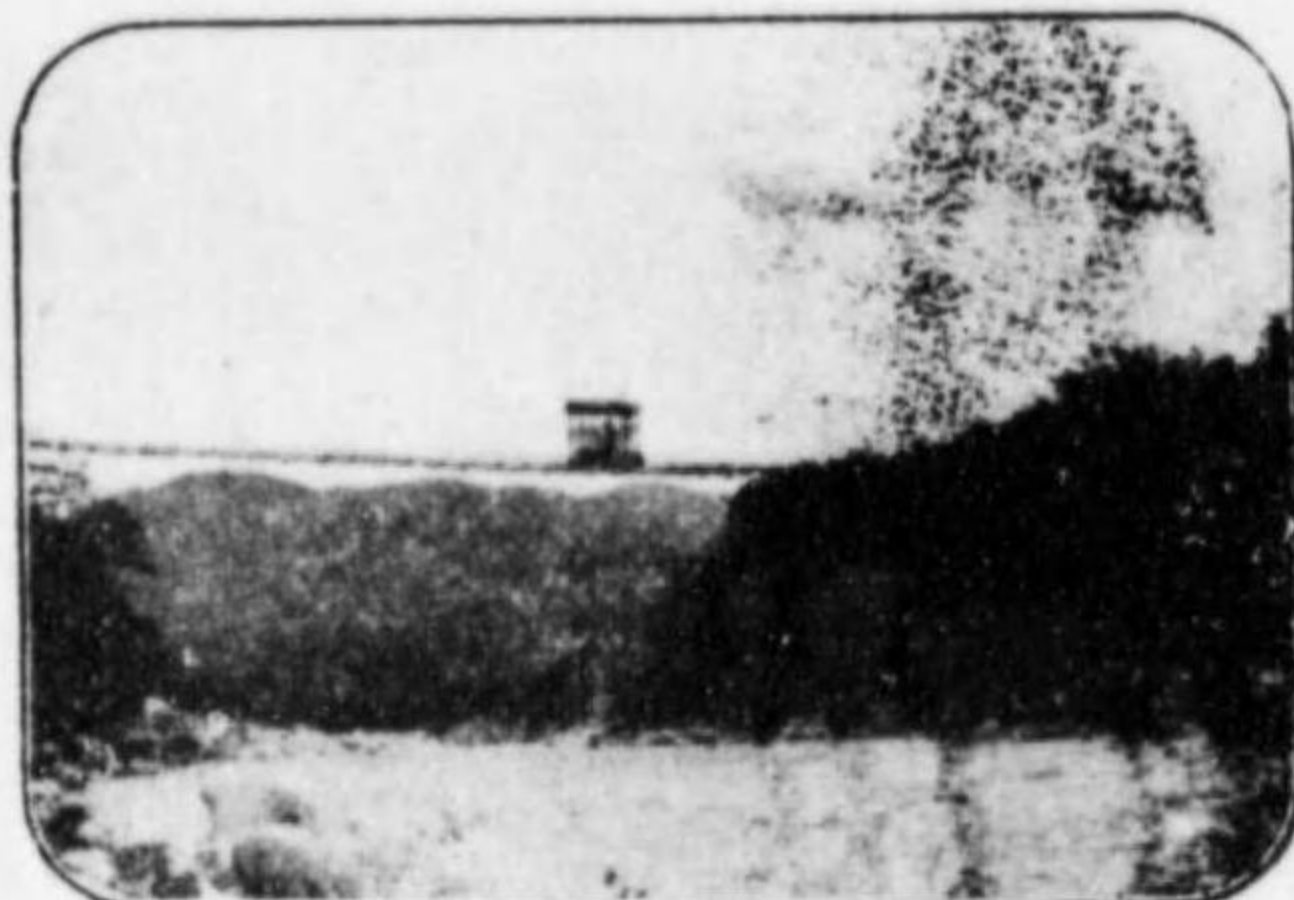
我心なくさめ兼つ更科や姨捨山に照る月を見て
その原や伏屋に生ふるはゞきどの有とは見えて逢はぬ君哉
鞭聲蕭々夜渡河曉見千兵擁大牙遺恨十年磨一劍流星光底逸長蛇
山坂上是則陽



鏡臺山

木曾路

木曾路は明治前に在りては中仙道と唱へ江戸京都間の副道なり一路山嶺多く頗る嶮難の道なりしも風景絶佳の處少なからざれば態々此道に依るもの多く且つ忍びの旅なごには故らに東海道を避けて此道を取るを例とせり今日では交通の便開け東は東京より鹽尻まで西は中津川まで汽車の開通し居り鹽尻中津川の三十餘里間も馬車人力車の往來自由なれば容易に此仙境の勝景を尋ぬることを得べし先づ東京よりの順路を記さば中央東線の汽車に依りて鹽尻驛に至るに僅に九時間を出でず昔は之までに碓氷峠、和田峠、鹽尻峠などの嶮ありて既に數日を費やしき。やがて鹽尻驛より汽車に分れ西に向ひ馬車又は歩を進むれば桔梗が原の古戰場あり此を過ぎ洗馬驛に出で本山、贊川、奈良井等の古驛を経て鳥井峠に達す此處迄は屏川の流に沿ひ風景既に世の常にあらず、鳥居峠は上り二里弱、頂上の眺觀、譬ふるに處なく後には駒ヶ嶽、前には御嶽の嵩嶺を望み此に御嶽の遙拜所あり峠を下れば數原驛あり次に宮の越驛には木曾義仲の城跡及び巴ヶ淵等の古跡あり鳥居峠は屏川、木曾川の分水嶺となり數原以西は木曾川の長流に沿ひて風光愈勝絶なり次の福島驛は木曾路第一の宿驛にて今尚ほ繁華の地たり御嶽は此より登るべし之より一路木曾川の左に沿ひ掛け橋の古蹟、寢覺の床など云ふ勝地古跡ありて道の遠きに飽く事なし懸け橋や命をからむつたかつら (鳥井峠)

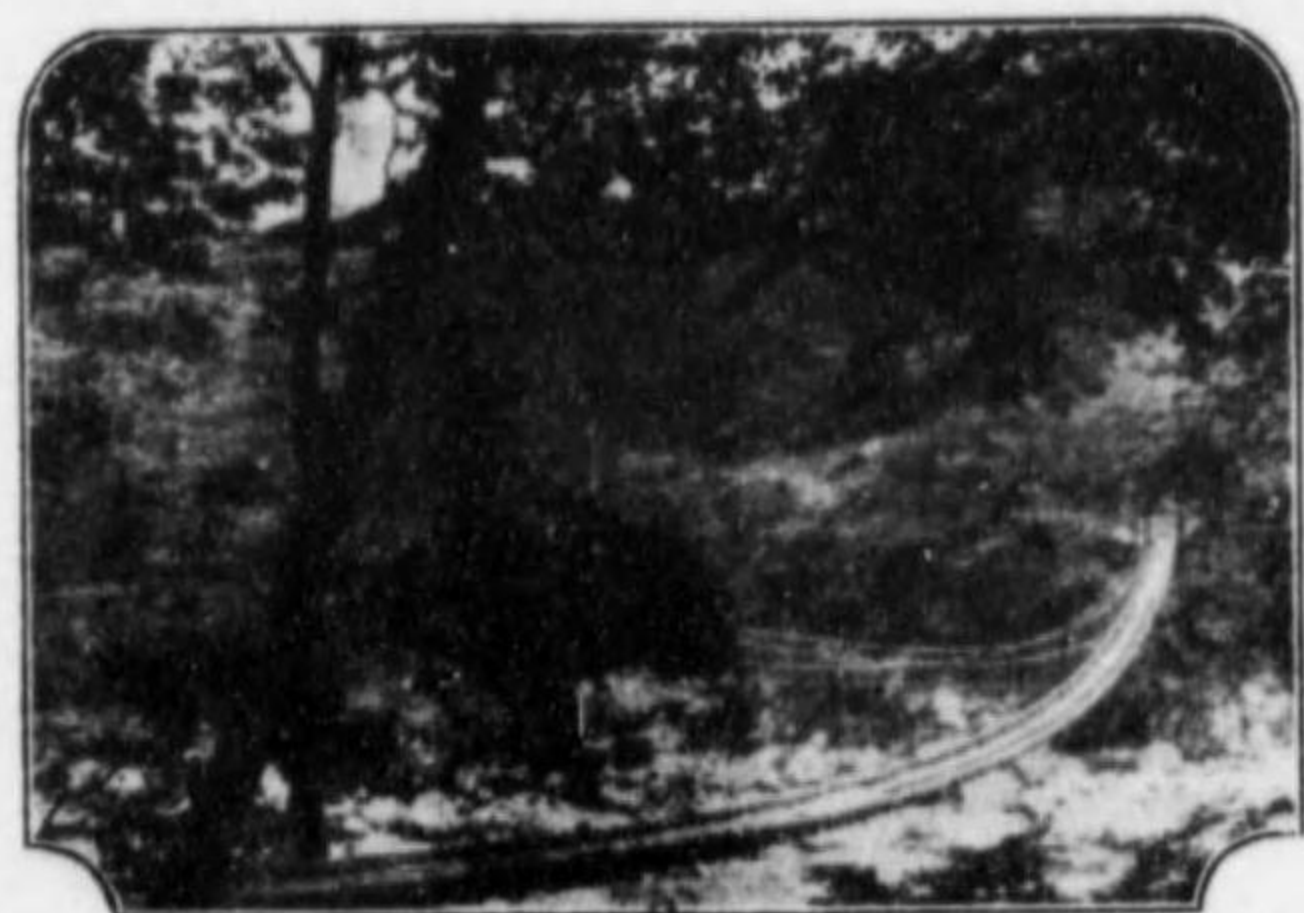


(一) 木曾川

共進會と善光寺



寢覺の床



(二) 木曾川

著名市街



松本市街

▲松本市 國の中央に位し岸川は西方に流れ四方山を繞らし舊戸田六萬石の城下にして市街は南北一里十町東西三十二町餘市は五十餘箇町に分れ中央東線に沿ふ信濃國の一都會にして兵營郡役所稅務署地方裁判所支部大林區署測候所警察署等を始め十數の諸官衙と中學校高等女學校女子師範學校等あり又銀行會社甚だ多く生絲を主要産物とし製絲場は十數箇所にあり其他劇場新聞社遊廓藝妓屋等夥多あるを以て枚舉するに堪へず市の中央を女鳥羽川貫流し全市を川の南北により二區に分ち南深志北深志と云ふ深志は往時松本の地名なりと舊城址は市の中央に在て天主閣五層の樓閣高さ二十五間依然として舊時の觀を改めず縣社筑摩神社は譽田別命外四神を祭り正殿の額は後陽成院の御宸筆にして一の華表の額は弘法大師の筆と稱す

▲福島町 西筑摩郡にあり木曾山中第一の都會にして松本市を距る十五里伊那郡を距る七里戸數約九百人口五千餘の一市街にして木曾御料支署西筑摩郡役所警察署等あり舊時此所に關門を構へ尾張藩の山村某之を管したりと市街は木曾川を挟みて兩岸に連なり漆器を製するもの多し戸々清流に臨み後ろは山岳重疊して聳へ町に興禪寺德音寺の二寺あり共に臨濟宗にして德音寺には木曾義仲の廟所あり其西に義康の古城址もあり

▲飯田町 伊那郡にありて本郡第一の都會たり人口一萬四千餘下伊那郡役所警察署中學校等あり近世堀氏六萬石の城下にして元結及び紙を産出す下諏訪町を距る二十里長野市を距る四十五里中央東線岡谷驛又は辰野驛にて下車し行くを宜とす人力車馬車の便あり僅かに町を隔てて飯田城址及び鎮守郊戸明神あり西に風越山あり又權現山と云ふ遊覽の清境たる今宮公園は其の山下にあり

▲高遠町 上伊那郡にあり人口四千五百餘三峯川の山谷中にありて一邑を成す市街は藤澤川を挟み東高遠西高遠と云ふ鍋黒視竹澤視を産す西高遠に鋒持天神社あり其の峯を天神山と云ふ西は笠原牧六道原に連なる高遠城址は青山に存す



木曾義仲廟所



諏訪湖畔製絲所

▲上諏訪町 諏訪湖の東岸に臨み霧ヶ峯の西南麓にあり中央東線に沿ふ信濃國の一小都會たり舊諏訪氏三萬石の城下にして諏訪郡役所警察署等あり戸數約二千人人口約一萬餘製絲業盛にして製絲場の夥多なる信州第一たり市街は戸毎電燈を點し旅館は家毎に温泉あり(温泉の事は温泉の部に詳なり)舊城址は町の西端なる湖岸にありて城壁尙ほ存し今は高島公園と稱す廣袤方一町許公園の傍らに遊廓あり料理屋あり又湖水と水田中より天然瓦斯の湧出多く風車を利用し瓦斯を地底より汲み肥料に供す微風動くに隨ひ數里に連なる風車盡く旋轉じまた一壯觀を呈す引て機械の原動力に用ふるなど天恵に富むの地なり

▲下諏訪町 上諏訪町に亞ぐ市邑にして湖の北岸上諏訪町を距る一里

中央東線に沿ふ舊時甲州街道と中仙道との合する所にしてまた飯田町に赴く伊那街道の起る處電燈會社は此所に設けられて上下諏訪町に供給せられ帝國第一の製絲地なる平野村は町の西隣にあり中仙道の國道は北佐久郡追分にて信越街道と分れ岩村田長久保町を経て西北下諏訪町に來り西南に鹽尻峠を越へ洗馬驛に至り善光寺街道(乃篠の井線の鐵道)と合し木曾谷に入るなり故に交通の便は遙に上諏訪町に勝る

▲稻荷山町 更級郡にあり信越線篠の井驛を距る二哩三十二鎖にして中央東線稻荷山停車場のある處なり戸數僅かに七百人口三千八百餘生絲織物杏等の産地にして町には劇場あり藝者屋あり旅舎料理屋數戸あり

▲松代町 埴科郡にあり信越線屋代停車場を東北に距る二里八町長野市を距る三里

弱本郡の一都會にして戸數約三千人口一萬二千五百此地天文元龜の頃武田上杉の二氏が數々信濃に戦ひしとき武田の將高坂彈正が守りて上杉氏の南進を防ぎたる海津城址のある處川中島は近く一里にあり舊真田氏の城下にして町には祝神社白鳥神社(日本武尊を祀)長國寺(真田氏の菩提所)等あり近世俊傑佐久間象山は松代藩士なり

▲篠の井 は信越線と分岐して起り稻荷城捨等の諸驛を経て松本に達し更に西方鹽尻に至り甲府より來る中央東線に合する要衝たり

▲上田町 小縣郡にあり信越線に沿ふ長野松本に亞ぐ都會にして千曲川の右岸にあり戸數約四千人人口二萬餘小縣郡役所上田女學校上田中學校



山 女 妻



場 戰 古 島 中 川

甲種蠶業學校其の他諸官衙製絲會社織物會社銀行等多く松平神社大宮神社大輪寺本陽寺海禪寺願行寺月空寺等あり南方二十五町を距て、神川村國分寺には行基僧止手刻と稱する身長五尺八寸の樂師佛を安置す又境内に藥師堂三重塔の二字を存す然も此の二堂は帝國有數の古建築として考古家遠くをも辭せず屢々來て見る處なり上田城址は尼ヶ淵にありて天主閣を存す當初真田昌幸の城きたるもの徳川氏の初に至り松平氏を封じ五萬三千石の城下にして陸路長野市を距る十里松本市を距る十二里餘物貨集散の要衝地たり

▲小諸町 北佐久郡に在り信越線に沿ふ一驛なり舊牧野氏一萬五千石の城下にして戸數二千人口九千の一都會なり千曲川は町の西を流れ東南開湖にして遠く香阪荒船の諸山を望み北は三尾根山の麓に接す此地上田町を距る五里町の西南一里を距て、布引觀音あり岩石の奇を以て著る

▲飯山町 は下水内郡にあり人口八千百長野市を距る八里餘千曲川の西岸にあり一小都會にして西北は斑尾山を以て越後と界し嶺脈委婉として線繞し東下高井郡の諸高峰を望む豊野淺野より千曲川に沿ひて越後魚沼郡に至る者又た嶺を越へて越後頸城郡より來る一支路にして信越線豊野驛を北に距る四里



神社

▲諏訪神社 は諏訪郡にありて上諏訪町の南一里二十町を距て中洲村神宮寺にあり官幣中社にして國內第一の大社とす健御名方神、八坂刀賣神を祭り社殿尤も壯麗にして繞らすに神籬を以てし本社末社寶殿繪馬殿神饌所等は皆な境内に連なる又下諏訪神社は下諏訪町の北端に在りて其造營等稍々上諏訪社に劣ると雖も老杉森然湖上に茂りて境内高潔瀟灑殊に神威の嚴かなるを感ず附記御柱祭(諏訪繪詞云)寅申の支干には當社造營あり一國の貢稅永代の課役桓武の御宇に始れり但し遷宮の法則諸社には異なり元より古新二社相竝



諏訪神社

で斷絶せず仍假殿の煩なし先の寅歲造替の新社は七廻りの星霜を経れば自潔齋して申歲遷宮なし奉る云々故に本年申年に相當したるを以て五月盛なる御柱祭ありたり

▲戸隠神社 長野市を西北に距る四里二十町國幣小社にして手力雄命を祀り攝社二社あり一を中社と云ひ一を寶光社と云ふ中社には八意思兼命(やまのしんがみ)寶光社には天表(あめうら)春命(はるのみこと)を祭る山は皆巖石より成る二王門より石階を登れば不動岩獅子の岩天狗岩などありて巨巖四方に屹立し老杉鬱茂幽邃極まりなし

▲生島神社 小縣郡東鹽田村下の郷にあり上田町を南に距る二里餘生島足島の二座あり共に國幣中社たり



戸隠神社

山嶽

▲淺間山 北佐久郡の北端に屹立し日本有名なる噴火山にして四時噴火の煙を斷たず海面を抜くこと八千二百三十尺信越線追分驛より頂上まで登攀三里十町と稱す追分原の高原を行くこと里餘にして赤瀧の下に達す是より坂路頗る急峻往々前掛山に至れば四望一喬木なく火石焦土途を没し恰も富士山の七八合目に類す更に行くこと十八町餘にして噴火口の傍に達す坑は直徑一千尺許往時は淺間神社の石祠ありこと云ふも今は噴火の爲に毀たれて其の趾をも存せず

▲戸隠山 長野市を距る西北四里二十町にして戸隠村にあり善光寺の傍より直に賽路に入る新安村に達する一里餘は羊腸たる九十九折にして峻峻を極むるも三里許は稍々平夷にして飯綱山麓に至れば附近の群峯は行人と高さを均くし曠渺たる飯綱原は一眸の中に收め眺望頗る絶佳なり裾花川の源にあたり其主峯標高八千尺と稱し飯綱高妻黒姫妙高の諸峯に連接し一群の火山壘を爲す中院より攀登一里にして本院に至る祠殿あり奥院と云ふは高妻乙妻山を指し戸隠山の北なる峯巒とす更に三里餘を隔つ

▲高妻山 戸隠山の北にあり乙妻山と相並び信越の國界に峙つ標高二千四百二十五米突越後妙高と秀を競ふ此の山峯を以て戸隠の奥院となす



淺間山



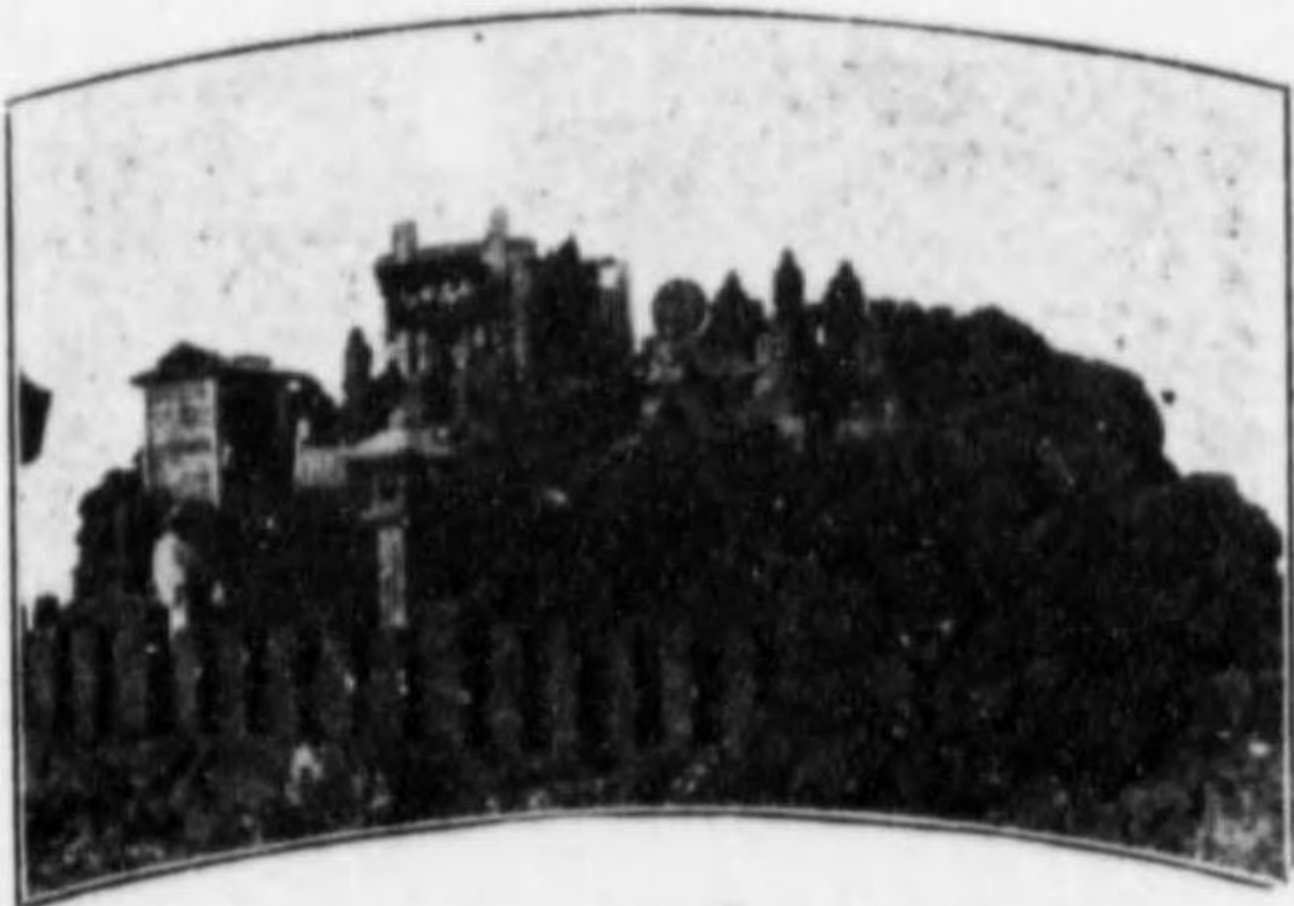
御嶽山

▲御嶽山 海拔一萬五百尺富士より低きこと二千尺とす山は福島町より北方木曾街道を離れ木曾川を渡り御料林の山間を過ぎ三里餘の王滝峠を越へて登山口に達す絶頂に至るまで沿道所々に茶屋、雜菓子屋、甘酒屋等あり又百草の煉藥などの藥をも販く登ること三里餘にして八海山大権現の祠あり六合目に達すれば小屋あり雨露を凌ぐ可く二三十人を宿せしむるに足る十合目の頂上に至れば一草木なく唯だ燒石の崔嵬たるのみ此所に御嶽の本社あり其の一段高き所を劍ヶ峯と稱す終歲雪を殘す劍ヶ峯の背後に一の池二の池より五の池まであり皆舊火山の噴火口に水の溜まりしなり又飛驒に向へる西方の一側は斷崖絶壁鳥すらも飛翔して上る能はずと云ふ

▲駒ヶ嶽 木曾川と天龍川兩河孟の間なる峻峯にして海面を抜くこと九千七百尺伊那郡高遠町の西にあり

▲八ヶ嶽 諏訪郡佐久郡山梨縣下巨摩郡の三郡に跨り海拔二千九百三十米突立科の南五里にあり權現嶽編笠嶽硫黃嶽の數峯列立す宮川金澤の直東にして登路六里其の裾野は三郡各一面に當り諏訪郡に在りては泉平と云ひ甲州にては逸見平と云ひ佐久郡にては海の口平と云ふ

▲御射山 諏訪郡にあり上諏訪町を東南に距る三里富士見村金澤の東南一里甲州街道に沿ふ山の南十八町を距て、諏訪湖に入る金澤川と落合川の分水界あり海面を抜くこと九百四十米突八ヶ嶽と赤石山脈御所平の山溢にあり



御嶽山頂上

河川

▲天龍川 は源を諏訪湖に發し南流して赤石山脈の西を流れ其の南下條の邊に至るや左右の諸山相迫合して地勢南北に分る即ち信濃遠江の界とす川は其の間を衝破して南下す湖源より州界に至る二十七里尙ほ十八里を経て掛塚港に至りて遠州洋に入る

▲千曲川 は又筑摩川に作る源を佐久郡川上村の甲武信嶽甲斐の金峰山等の溪谷より發し海の口に至りて北流し更に野澤に至りて西北に向ひ小諸上田坂城等を経て川中島に至り犀川と合し越後國魚沼郡に入りて信濃川と云ふ水源より川中島の合流に至る凡三十五里川中島より新潟港口に至る凡四十六里なりと云ふ

▲木曾川 は小木曾の山中鉢盛山に發し南流して敷原福島町等を経て三岳川と合し妻籠に至り西南に折れ田立山口の二村を貫流して美濃惠奈郡に入る水源より凡二十里編筏の外舟を通せず

▲犀川 は鳥居峠に發源し木曾川と反對の方向に流れ賈川、櫻澤を経て附近の諸澤を合せ川中島に至り千曲川に合す此間深潭あり激流あり風光の絶勝を極む



天龍川

▲鳥居川 は水内郡にあり源を戸隠山の東飯綱黒姫の諸山より發し古間村に至りて南に流れ信越線牟禮驛より東南に轉じ淺野に至り千曲川に入る豊野、柏原間十一哩の鐵道は此一溪の左右を縫ふて通ず頗る曲折急峻なり

湖

▲諏訪湖 諏訪郡にあり一名鷺湖と稱し舊時洲波海に作る天龍川の源にして東西一里十四町南北三十三町周廻四里二十二町國內第一の大湖たり四山環繞す即ち東に八ヶ嶽北に和田峠峙ち南は杖突峠西は鹽尻峠の間にありて四圍の山間より來る溪流は湖中に入り西流して伊那地方に入り天龍川の流域を爲す閑を得て鹽尻峠の山腹に登れば遙かに湖上の全景を望む可く水は一碧の鏡を開き四周の山影湖光に映じ諏訪町附近の村落湖上を往來する遊舫等は一々指點して數ふ可く其風景の絶佳言ふ可からず



湖

湖中には鯉、鮒、鰻、鮭魚等を産じまた冬期は湖面厚く氷結するを以て人馬其上を來往す近時土地の有志者謀りて氷滑會なるものを組織す故に冬期各學生は

野 勿論外人の來り氷滑するもの多しと

▲野尻湖 一名芙蓉の湖と云ふ上水内郡の北端越後街道の東にあり信尻 越線柏原驛を距る一里餘東西三十町南北十三町周廻三里十七町諏訪湖に亞ぐ大湖にして其形は瓢の如く湖中に小島嶼あり辨財大祠を安置す且つ長橋を架して賽路とす祭神の辨財天は僧行基なるもの戸隠山に參籠のとき手刻して芙蓉湖の小島に安置し祠宇を造營したるものなりと傳ふ湖岸に立て眺れば斑尾山東に聳え翠巒湖を繞りて影湖上に映じ一大鏡に對するが如し



艇鏡の上湖訪諏

峠

▲鳥居峠 は伊那郡敷原町の東北十八町にあり舊時木曾谷に入る驛路なりしを以て其名著る此處の記は別に木曾路の中に出す

▲和田峠 は下諏訪町の北溪に沿ひて登ること二里半絶頂の南北に民家あり共に餅屋と云ふ南に下る二里半にして和田驛に至る此地元治元年十一月水戸浪士西上するや松本高遠藩出兵し戦を交せし處なり

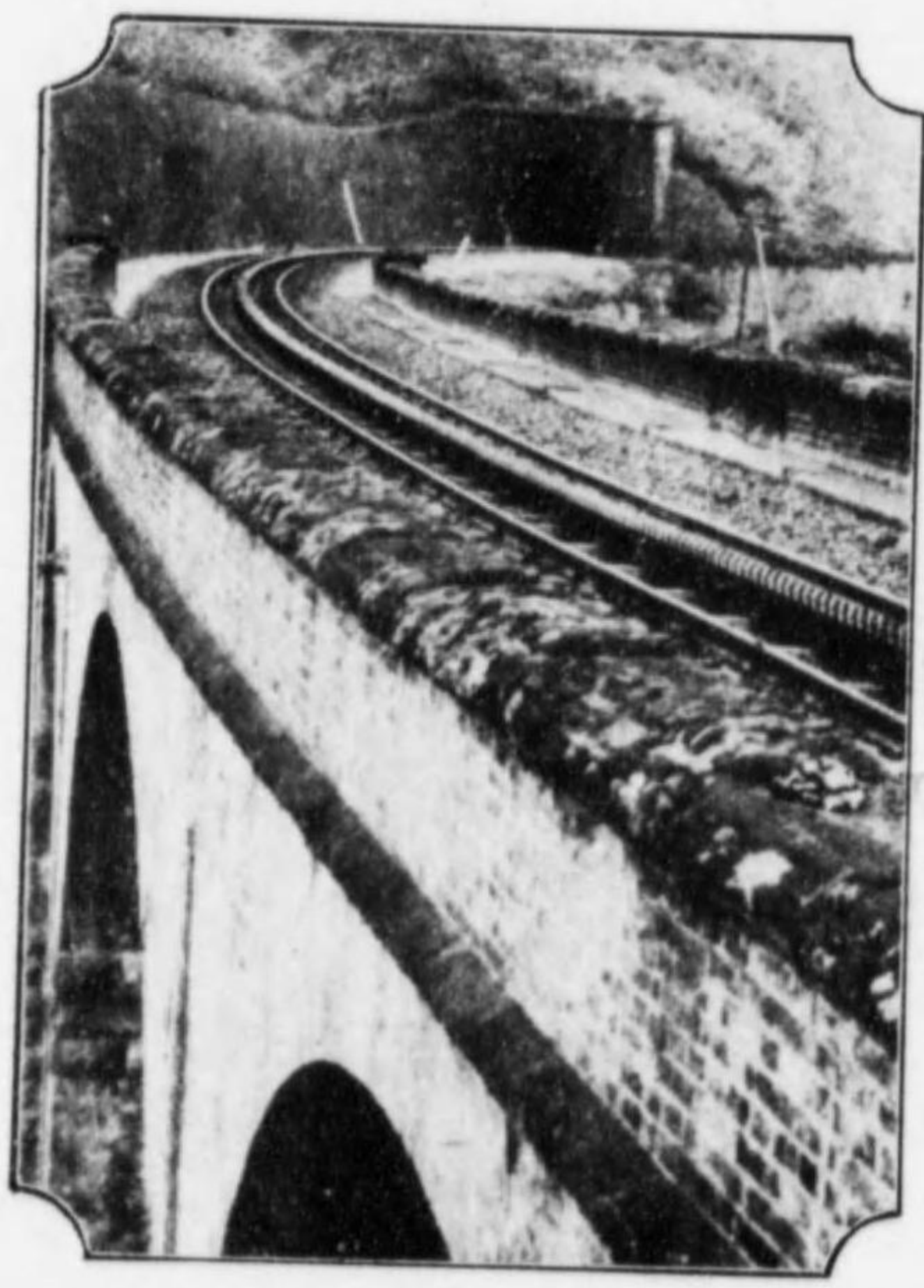
▲鹽尻峠 は東筑摩郡に在り南は鉢伏山に連り西南は筑摩地峠を経て木曾山脈に至る舊時東山道の驛路は伊那路より筑摩地に出しが近世驛路を變じて鹽尻峠を經由す諏訪郡にては此峠を四屋峠とも云ふ

▲保福寺峠 東筑摩郡に在り刈谷原の西三里松本市上田町間の通路とす

▲猿馬場峠 更科郡八幡村の西嶺にして稻荷山町より麻績に通ずる山道とす中央東線松本より篠の井に向ふ鐵道亦此の山脈を通ず

▲澁峠 上高井郡に在り中野町より上野吾妻郡に通ずる山道にして澁湯の東五里坂路の險難極まる峠を下る三里にして草津温泉に至る此間數里村落なし

▲碓氷峠 北佐久郡輕井澤の東二十町を隔つ新舊の二路あり新道は近年開鑿して車馬を通じたるものなり舊路には峠町と名づくる部落あり又峠權現社あり熊野大神を祭ると傳ふ



式トゾア嶺水碓

温泉

▲別所温泉 小縣郡別所村にあり信越線上田驛を南に距る二里三十町(人力車馬車の便あり)温泉二箇所に湧出し一を院内一を大湯と云ふ何れも泉質は硫黄泉にして院内には石湯、大師湯、久我湯の三浴槽あり大湯には大湯、

女齋湯の二浴槽あり何れも慢性中風慢性關節炎等其他諸症に效あり此地西に夫神嶽屹然として聳へ南は女神嶽の支脈に連接し湯川院内の中央を貫流す院内には千手觀音堂あり北に三四町を隔て、國寶に編入せられし安樂寺八角四重塔あり又余吾將軍の塚あり



別所温泉

▲田澤温泉 小縣郡田澤村にあり上田町を距る四里八町(人力車の便あり)温泉は硫黄泉に屬し二浴槽あり一を有乳湯一を仙人湯と稱し婦人諸病に效あり殊に妊娠を求むるものには奇效あり此地西に十觀山を抱き北に子檀山を負ひ涓々たる溪流川の麓にあり西に浦野川に入り土地海面より高きこと二千二百の中央を貫流して浦野川に入り土地海面より高きこと二千二百四十尺又二十四町を隔て、飛下三丈の奈良本不動瀧ありて山村の一小勝地たり

▲沓掛温泉 小縣郡青木村沓掛にあり一名小倉の湯と稱す上田驛を距る三里(人力車馬車の便あり)温泉は夫神嶽の中腹にあり硫黄泉にして瘡毒麻疾腫物等に效あり此地別所温泉を距る一里半田澤温泉

を隔る三十町土地高燥且幽靜なるを以て炎暑の候來客殊に多しと云ふ

▲中野温泉 下高井郡中野町にあり信越線豊野の停車場を距る二里十町(人力車馬車の便あり)馬車は乗客六人に満たざれば出車せざるを以て待合時間を要す此地上州草津街道に沿ひ湯田中温泉を距る一里二十町(人力車の便あり)泉源は明治三十六年十一月中土地の有志者相謀りて一里餘隔つる上河原温泉より誘引したるものにして鹽類泉に屬し痛風症其他皮膚病に尤も效あり町の東北八町を隔て、觀音山あり西方には千曲川を一眺し得べし

▲湯田中温泉 下高井郡平穩町湯田中にあり中野温泉の西方一里二十町豊野停車場を距る四里十四町(人力車の便あり)瀝温泉を距る十二町泉質は硫黄泉に屬し慢性レウマチス慢性痛風其他梅毒性諸症に效あり此地南に星川の清流を帯び地形は稍々平坦にして山麓に沿ひ市街を爲す北に湯平の小丘あり又浴室の近傍に小公園も稱すべきものありて浴客の歩養地に充て村外には遊廓等あり三十町を隔て、飛下六十丈の閑瀧あり浴後の散歩地に適す

▲角間温泉 下高井郡穗波村字佐野にあり湯田中温泉を距る二十四町角間川其東を流れ西は山岳重疊し眺望は湯田中に比し稍々佳なり土地海面より高きこと二千三百三十八尺餘泉は鹽類泉に屬し浴槽は一箇所あるのみなるも夏時は湯瀧を設く故に浴客多し

▲地獄谷温泉 同郡平穩村沓野にあり泉は嵩隙方二寸許の

共進會と善光寺



地獄谷温泉



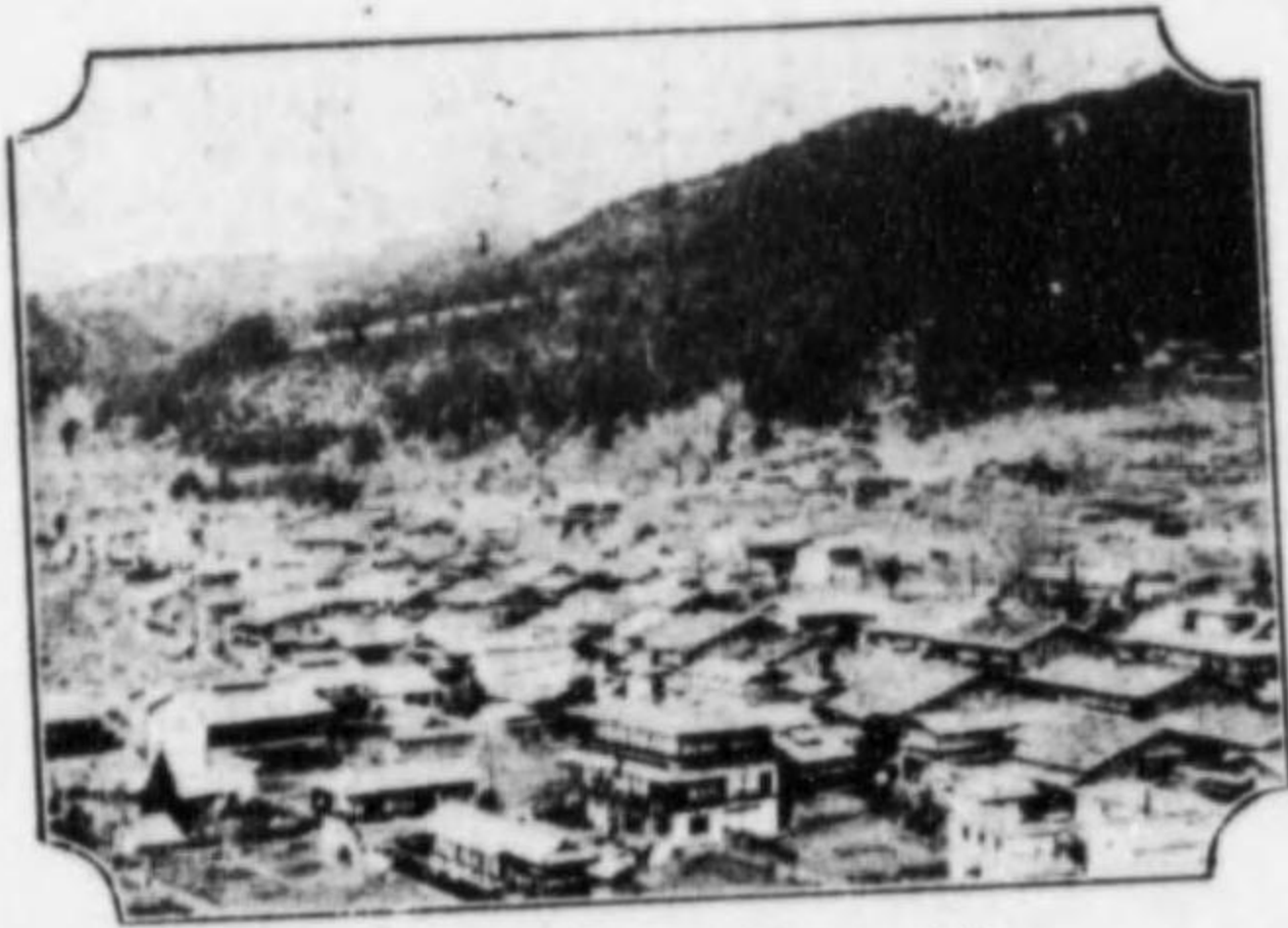
澁温泉

孔より噴出す其聲恰も轟雷の如し故に此稱ありと
▲澁温泉 下高井郡平穩村沓野にあり湯田中を距る十二町信越線豊野
停車場を距る四里三十町(人力車の便あり)浴槽は大湯笹の湯等外數湯あ
り何れも質は鹽類泉に屬し慢性レウマチス皮膚病痔疾等に效あり此地は
群馬縣に通ずる縣道に沿ふ村落にして南は白根の山脈連亘し北又山嶺を
環らす角間横川の二川は合流して村の南部を限り浴閑少しく山上に攀れ
ば川中島を遙望し戸隠飯綱の諸山も亦眺む可く地獄谷上林温泉等は僅か
に隔り居るを以て遊覽地に乏しとせず

▲淺間温泉 東筑摩郡本郷村淺間にあり中央東線松本停車場を距る東
北僅に里餘(人力車の便あり)温泉は一名犬
飼の御湯と呼ばひ上淺間下淺間の二區に分ち

湯は二區共に湧出す質は單純泉なるを以て慢性レウマチス婦人生殖器慢
性諸病に特效あり泉源の夥多なる蓋し信陽中第一なるべし故に浴槽も兩
區を通じて數十箇所あり十町餘を隔て、上昌山玄向寺女鳥羽の瀧等あり
避暑等には好適地なり

▲山邊温泉 昔時東間温泉と呼ばひ又名白糸の温泉とも云ふ東筑摩郡
山邊村字湯の原にあり中央東線松本停車場を距る東方三十町(人力車の
便あり)淺間温泉を距る二十町泉質は鹽類泉に屬し腦病、胃病、中氣、殊に
肺病の初期には尤も效あり此地淺間温泉に比し第二流にありと雖南北に
御殿山あり遠く松本平を望み海面より高きこと約千九百二十七尺餘なり



淺間温泉

▲上諏訪温泉 諏訪郡上諏訪町にあり甲州街道に沿ふ郡内一
の都會にして下諏訪温泉を距る一里十一町西は諏訪湖に向ひ東
は尾玉山を負ひ北は霧ヶ峰を擁し海面を抜くこと二千四百四十
尺餘此地到る處硫黄泉に屬する温泉を湧出す官幣中社諏訪神社
は町の西南一里二十町を隔て、中洲村神宮寺にあり又高島公園
は町の西數町にあり昔時の高島城址にして南遙に富士を望み西
近く諏訪湖を眺め浴閑杖を曳かば身の俗塵を忘れしむ

▲下諏訪温泉 上諏訪町に亞ぐ一小都會にして此地も亦多く
温泉を湧出するも上諏訪温泉と異なり鹽類泉に屬し綿の湯無名
湯外二湯あり此地舊中仙道の街道に沿ふ東北は鷲ヶ峰砥澤の諸
山を擁し南は諏訪湖に面し眺望佳なるを以て浴療休養地に適す
▲靈泉寺の湯 小縣郡西内村にあり信越線大屋驛を距る五里
(人力車の便あり)氣候冬季は西北の寒風山の爲めに遮られ夏季
は冷氣を東北より受くるを以て殊に凌寒避暑に適す

▲鹿教湯温泉 小縣郡西内村にあり此地は大屋驛より松本に



上諏訪町

通ずる縣道に沿ひ三才山嶺の東麓にあり

▲白骨温泉 南安曇郡安曇村白骨にあり

▲中房温泉 南安曇郡有明村中房にあり

▲葛の湯温泉 北安曇郡平村にあり

▲戸倉温泉 埴科郡戸倉村にあり本泉は千曲川の河原より湧出する鹽類に富める硫黄泉なり

城 址

▲飯田城址 伊那郡飯田町にあり慶長六年小笠原兵部大輔秀政庚子役の功を以て伊奈郡に五萬石を賜り下總古河城より移り飯田の古城を修理し之に居り其子信濃守忠修三萬石を加封せられ後堀氏に代り子孫世襲したる地たり

▲高遠城址 伊那郡高遠町胃山にあり初め伊奈侍高遠頼繼之れに居りしが天文申武田に服したれば甲州の番手を置かる天正十年二月織田軍の伊奈に入るや諸城風を望み潰散す獨り仁科五郎信盛高遠を固守す力戰遂に城陥り信盛以下死す後鳥井正春封せられ更に元祿四年内藤に代り子孫世襲したる地たり

▲高島城址 は諏訪郡上諏訪町の西高島にあり城址巖然として遼濠共に存す高島公園之れなり代々諏訪因幡守の居城にして城は湖中に出で三才湖に包まれ陸の一方に入口あり二の城は山本勘助晴幸の繩張したる處なりと云ふ今は只石垣を存するのみ茫々たる草莽は以て疇昔を思しむ

▲松本城址 は東筑摩郡松本市街の中央にあり西北は放光寺山に接し東檜井川の丘陵により舊深志城と云ふ今や廢墟となれりと雖も五層の樓閣猶存す天正十年六月織田の將士信州を去るや上杉の兵深志を取り小笠原貞種を降附す後ち豊臣氏石川康昌を封す數替して戸田光慈志州より來りて領し世襲して維新に至る

▲飯山城址 町の東千曲川の沿岸にあり天正中上杉氏之を築きて善光寺平川中島の治所となしたり慶長十五年越後堀氏の族奥田直寄飯山三萬石を賜る後ち數替して本多助芳二萬石



松 本 城 址

に封せられて世襲したる地たり

▲松代城址 舊貝津城ともいふ又川中島とも稱せらる松代町にあり武田上杉の二氏川中島を略するにあたり皆此城を以て第一の鎮所となし上將を置きたり慶長四年森忠政川中島十二萬石に封せられて入部し松代城と稱す忠政津山城に移り松代城に守將を置かる後ち松平忠昌酒井忠勝等入部せしが皆久しからず元和八年眞田信幸上田より移り十三萬石に封せられ世襲して維新に至る

▲上田城址 上田町の西南に位し千曲川の河岸上にあり初め眞田氏之を起し松尾城と云ふ慶長五年八月昌幸此に據り徳川秀忠の西征を支へ拒戦三日是歳昌幸の嫡子信幸沼田より移り封九萬石元和八年松代城に轉す後ち數替して出石城主松平忠國入部して五萬三千石を封む子孫世襲して大政改新に至る今や僅かに城址の西隅に天主閣を存するのみ



飯 山 城 址

▲小諸城址 佐久郡小諸町の南にありて千曲川崖岸にあり一に穴城と云ふ武田家の成所とす天正十八年以後仙石秀久入部し子忠政に至る元和八年以後青山宗俊酒井忠能西尾忠成石川乗政牧野康重等の城主交替して康重以後子孫世襲して明治維新に至る



上 田 城 址

東京府



宮城二重橋

東京府は武蔵の中、一市八郡及び伊豆七島、小笠原を管轄し其郡部に屬する著名の市街は南に品川大森の兩町、北に千住町、西北に新宿、八王子、府中、板橋等ありて其一市は即ち東京市なり
東京市は即ち葦葎の下、その繁榮を觀覽すべき場處とは能く小冊子の記し盡すべきに在らず今は唯其概略を記すべし、市内人口二百十餘萬、東西四里、南北四里餘、之を十五區に分つ麴町區は皇城所在の區にして區の中央を丸の内と稱し皇居は此中に在りて諸官衙其周圍の各町に散在す公園には日比谷最も顯はれ神社には靖國神社、日枝神社等あり日本橋區は市内中樞の繁華地を占め巨商豪賈多く此地に集り京橋區は日本橋區に次ぐの商業區にて銀座通り特に知られ芝區は新橋停車場、芝公園、増上寺、愛宕神社は新橋停車場、紳士を住せしめ牛込小石川兩區



靖國神社

社等顯はれ麻布赤坂兩區には多く官吏、紳士を住せしめ牛込小石川兩區は近來次第に繁榮に赴き牛込の神樂坂、小石川の砲兵工廠等知られたり
神田區は小川町最も繁華にして錦町、駿河臺には學校多し本郷區亦學校多く帝國大學、高等學校等亦此區に在り下谷區は上野公園を以て名高く淺草區は觀世音に依つて知られ本所深川兩區は今工場地となり四谷區は最も邊陲に屬すれども近來電車の交通に依り次第に繁榮に赴き勤め人なご多く此地に住するに至れり
交通 新橋驛は東海道線の起點、上野驛は東北線、水戸線の起點、昌平橋は中央東線、兩國は總武線の起點にして東武線に連絡す

神奈川縣

神奈川縣は武蔵の中、一市三郡及び相模の八郡を管轄す、面積百五十

六方里、人口八十八萬にして縣廳は横濱市本町に在り其一市は横濱市にして日本貿易港の第一位を占む市街は東西二十三町、南北一里五町人口三十五萬あり市内は伊勢崎町最も賑ひ伊勢山の太神宮、市の公園等人口に啗炙す、港内は深さ八尋より十尋に至り港口東北に向ひ函館へ五百二十六哩、四日市へ百九十哩、其大阪の如き内地は勿論諸外國への航通自由なり



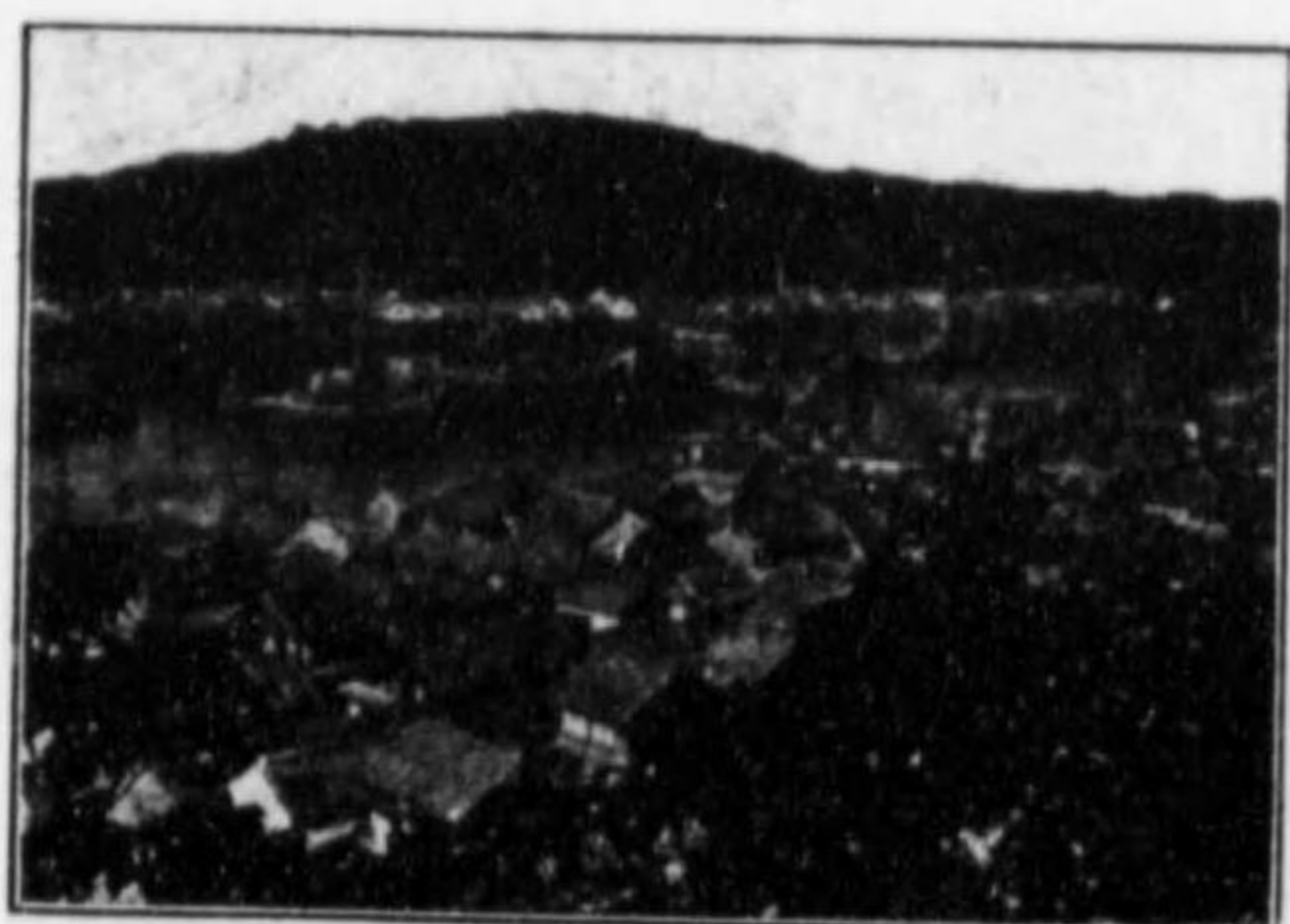
横濱港

管内著名の地 鎌倉、大磯、小田原、横須賀等皆汽車の便あり
鎌倉 維れ昔、源頼朝が覇府を開きし地、今は汽車の便を假りて四時の來遊者絶ゆることなし鶴ヶ岡八幡、長谷觀音其他賞觀の處多く夏時は海水浴にて著名となり紳士の別荘も少なからず
大磯 我國にて海水浴の元祖とも稱すべき地にして東京より二時間程夏時來遊者多く紳士の別荘、旅館等鎌倉時代を再顯するの觀あり

横須賀 東海鐵道大船より乗替へたる支線の終點にて要塞地に屬し軍港内には軍艦の出入繁く岸頭には鎮守府、造船所等あり
小田原 東海道線國府津驛より電車鐵道の便あり昔時後北條氏の據りし城域にして數年前までは漁業の盛地に過ぎざりしも近時亦海水浴、別荘地となり次第に都會の趣を爲せり箱根へは此より行くべし

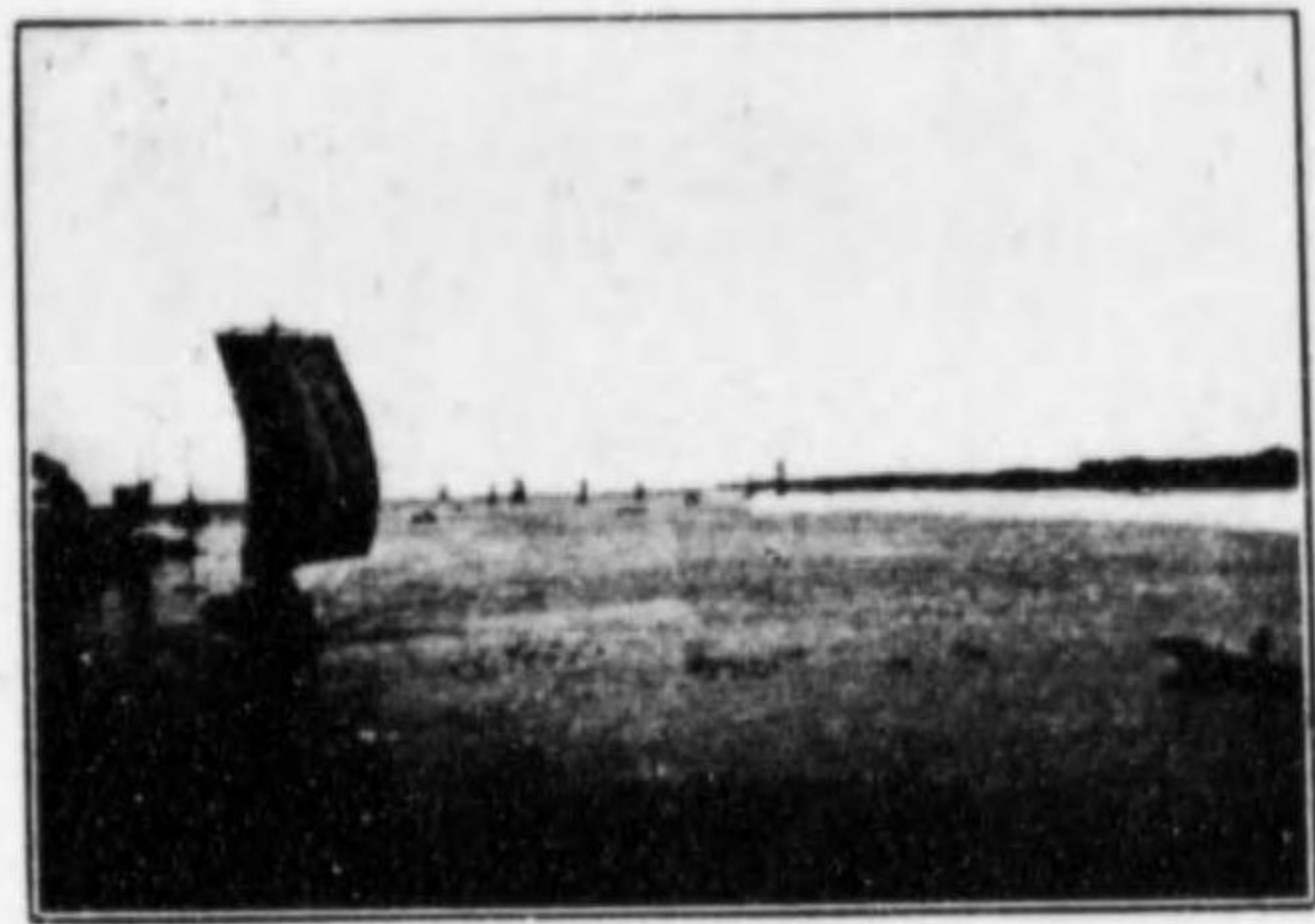
新潟縣

新潟縣は越後の二市十五郡、佐渡一郡、即ち兩國の一圓を管轄し面積八百二十五方里、人口百七十八萬、我國裏日本の大縣なり縣廳は新潟市に在り市は信濃川の河口の西岸を占め所謂五港の一なり東西に狭く僅かに十五町、南北に長く三十五町、人口六萬を有し市内河川に橋梁多く彼



浦賀港

共進會と善光寺



新 潟 港

相川町と東港 共に佐渡の要地なり相川町は佐渡の首都にして新潟へ海路四十九哩、所謂佐渡の金山(金銀鑛山)は町の東北に在り東港は相川へ十里半、越後への要港にして加茂湖を挟んで夷町、港町の二つに分る

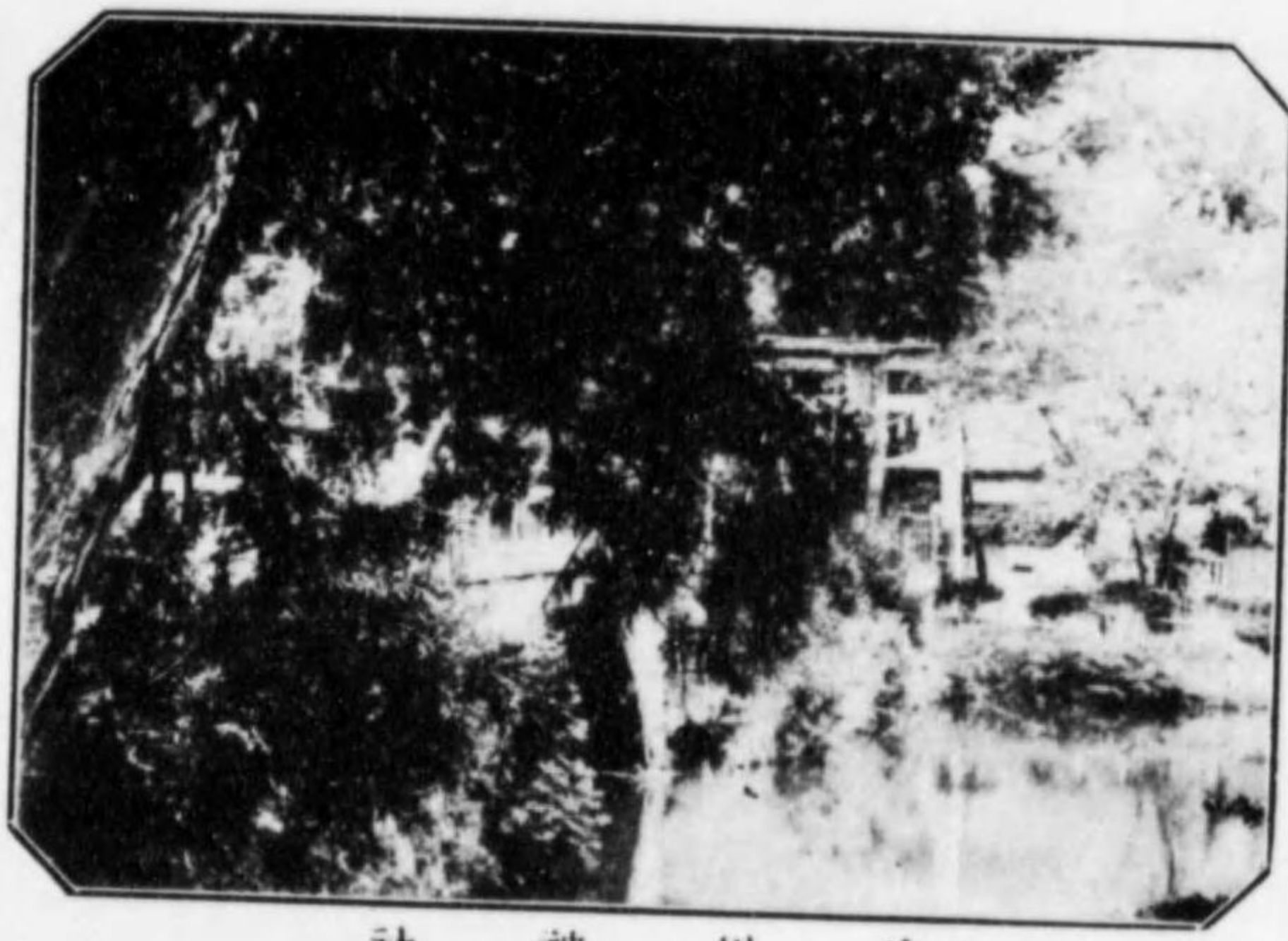
埼 玉 縣

埼玉縣は武藏の中、九郡を管轄す面積二百六十五方里、縣廳は浦和町に在り著名の市街は浦和を始めとし大宮町、川越町、熊谷町、岩槻町、青梅町等にして
浦和町 は東京上野なる東北線の沿道に當り上野より十二哩、大宮へ三哩六七、陸路川越へ五里計りなり



不 知 親

私の往來に便す北越線の起點にして北越線に接す
高田町 信越線新井、直江津間の要驛にして舊と榑原氏の藩地なり現今は我國第一の石油産地として毎年二百餘萬圓に達す
長岡市 信濃川東岸の要地を占め舊牧野氏の藩地なり北越鐵道の要驛にして直江津へ四十五哩、陸路新潟へ八十里とす又石油を産す
三條町 信濃川の下流、東南岸を占め通運の便を得て古來商業の繁盛地なり今も富者多く新潟へは十里、長岡へ七里にて達す
小千谷町 信濃川の西岸を占め新潟へ三里、柏崎へ十二里半、小千谷縮の産地にて名高く毎歲、越後縮、透屋、帷等の輸出多し
直江津 荒川の河口にある要港にして信越線の終點、北越線の終點なるを以て百貨集散し且つ汽船は遠くは下の關、神戸、小樽近くは新潟、伏木等へ往來し柏崎へは十七哩、佐渡へは四十七哩あり



氷 川 神 社

青 梅 町

甲武線立川より分岐したる青梅鐵道の要驛にて青梅綿の産あり

群 馬 縣

群馬縣は上野の二市十一郡を管轄す面積四百七方里、人口八十萬を算し縣廳は前橋市に在り前橋市は東西一里十六町、南北三十一町、人口四萬、兩毛線の終點にして利根川の東に沿ひ繭絲の商業極めて盛也
高崎市 人口三萬四千、繭絲の商業、前橋に並びて盛大を極め交通は高崎線の起點に當り一方は東

共進會と善光寺

大宮町 は古來中山道の要驛にて今日も尙ほ東北線と高崎線との分岐點に當り官幣大社氷川神社あり境内に公園ありて酒亭遊觀の設けあり近隣に茸狩り螢狩の地ありて都人士の遊ぶもの多し

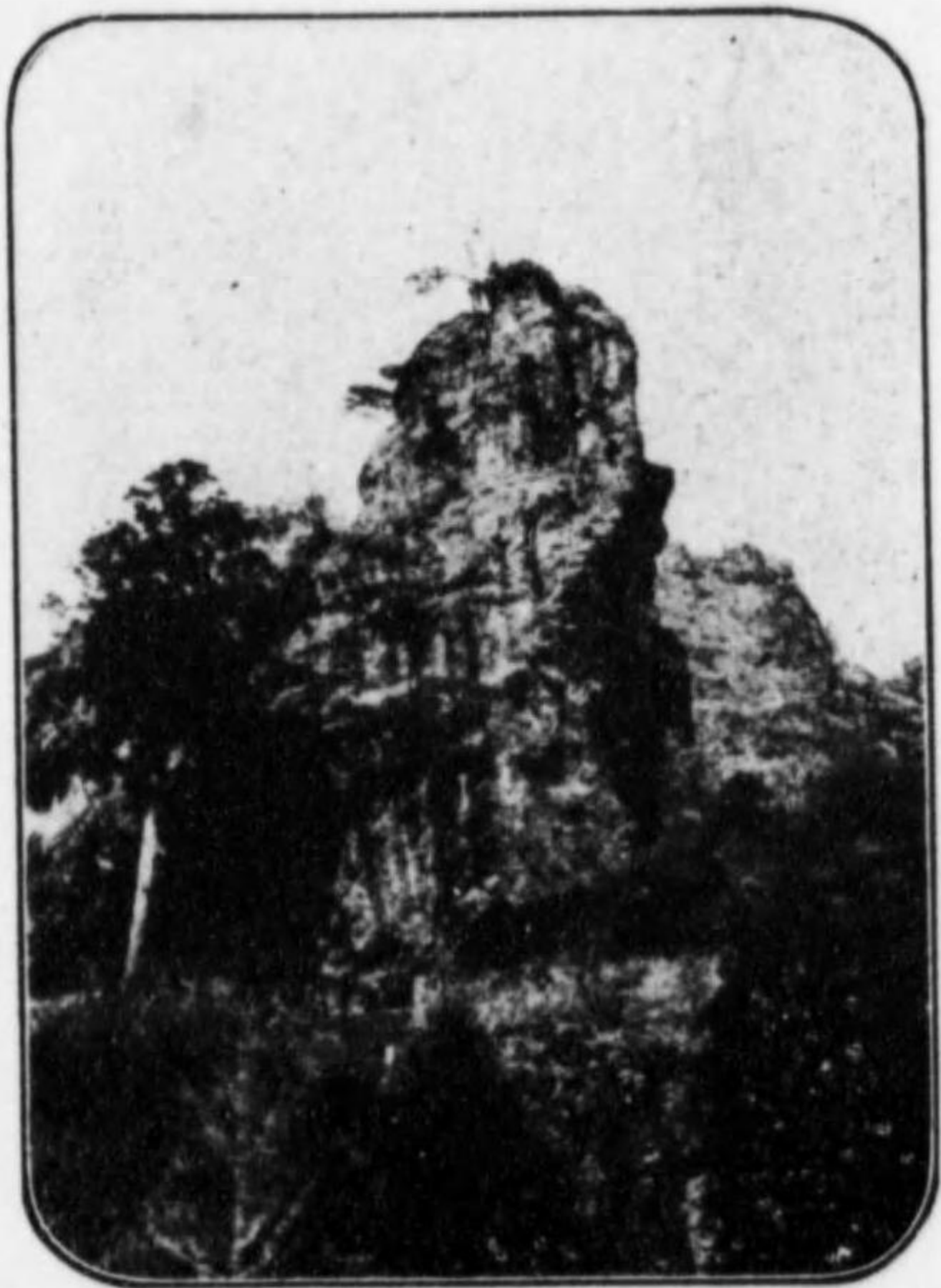
川越町 は人口二萬、川越鐵道の終點にして東京飯田町より三十五哩商業繁榮の地にて郊外に天台僧上創立の喜多院及び川越城址あり

熊谷町 東に忍西に秩父北に妻沼南に松山四通八達の繁榮地なり

所澤 入間郡の南部の名驛に在り人口五千川越へ十二哩なり
武甲山 大宮郷の正南に聳立し一千三百米突、形狀雄奇也
鴻巣 人口五千五百、鐵道大宮驛へ十二哩半北足立郡の大驛なり

粕壁 人口六千古利根川の南岸にあり千住驛より十七哩舊奥州路の名驛なり
岩槻 人口六千五百南埼玉郡の大驛、郡役所あり浦和へ三里、粕壁へ二里

京上野線に接し又此地より富岡、下仁田に達し信越線は有名なる碓氷峠を経て信州に入る
相生町と館林 桐生は兩毛線の要驛にして織物業の盛地、館林も同じく織物の産出地にして足利、桐生と竝んで縣下の富源也
伊香保と草津 共に温泉地にて有名の處なり伊香保は榛名山の東に在り前橋より六里、高崎より六里、草津は白根山の東に在り交通や不便なりと雖も往時より名高き温泉にて東西より來浴する者多し



妙義山

磯部と妙義山 磯部は碓氷川の南岸に在り信越線の一驛にて鑛泉を以て名多く東京より半日程、妙義山は關東第一の名山なり金洞、金雞、白雲の三峰に分れ奇峰怪岩の勝に富み秋時は紅葉を以て知らる磯部より山麓まで人車を通ず里程二里強、松井田よりも略ぼ同じ
アプト式鐵道 群馬長野兩縣の界、横川驛、輕井澤驛の間を碓氷峠と云ふ昔より紅葉に著名の處なり今は二十六のトンネルを通じ之に架したる鐵道をアプト式と云ふ我國にて唯一のものなり

千葉縣

千葉縣は安房一郡、上總五郡、下總の内六郡を管轄す面積三百二十六方里、人口百二十五萬、縣廳は千葉町に在り千葉氏は千葉氏の古城跡にして現今人口二萬八千を算し東京灣に接して近く汽車の便ある外に總武線の要驛に當り更に房總線の分岐點として上總の大原に達す
佐倉と佐原 佐倉は舊堀田家の城下にして今は兵營を置かれ總武線の要驛に當り成田線を分岐す佐原は利根川に臨みたる繁榮驛にて商業盛んにして醬油醸造に名あり交通は成田線の終點にて汽船は東

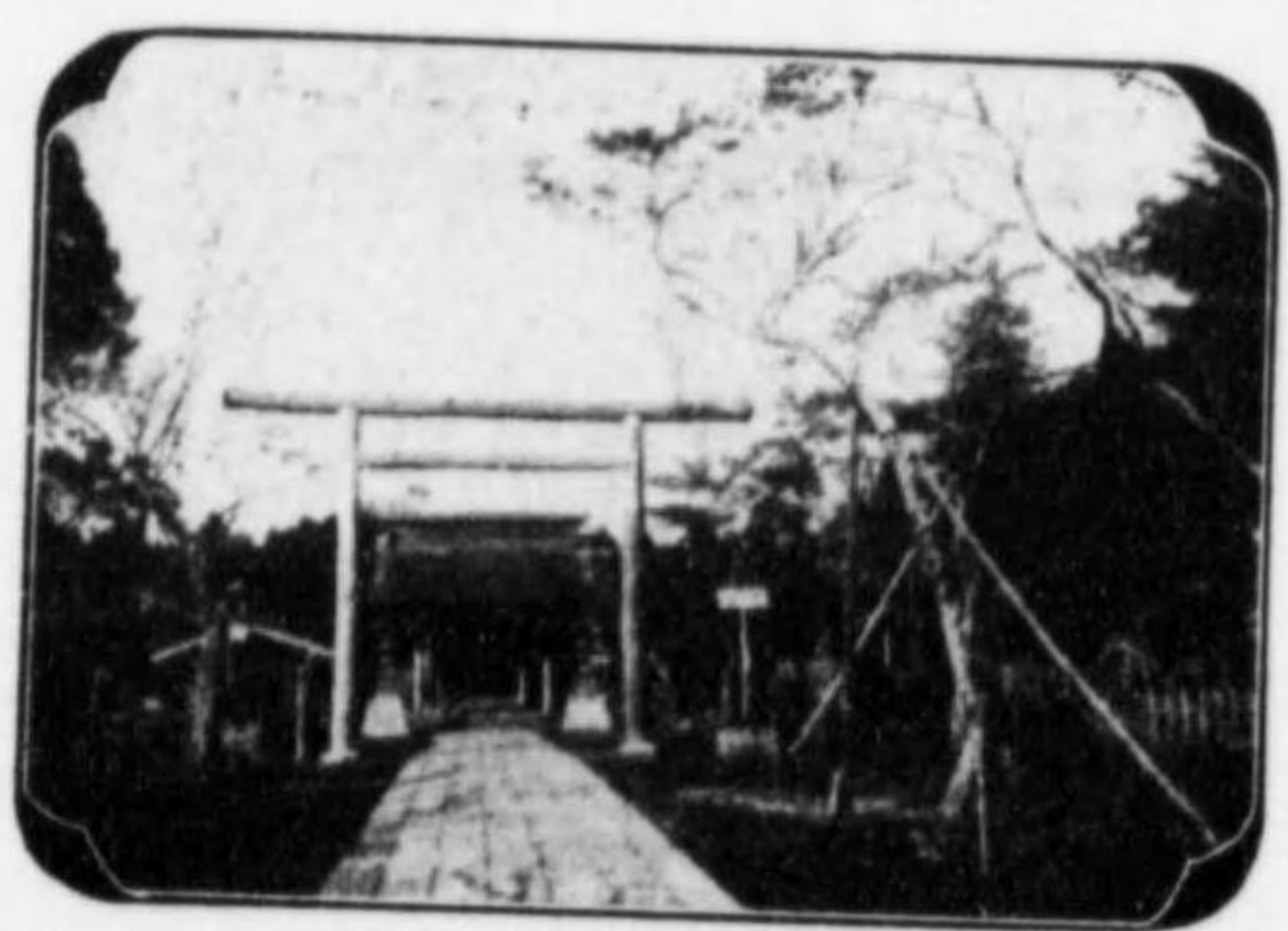
京、銚子、土浦等へ往來し陸路三十町にて香取神社に達し潮來、鹿島等へも船路の交通便なり
木更津 東京灣に臨み東京の對岸を爲し汽船は東京、房州の間を往來し漁業、商業共に盛んなる縣下の要港なり
北條と館山 相接したる町にして館山灣に臨み東京への交通には日汽船の便あり夏季には避暑、海水浴のため都人士の往來多し
成田町と銚子 成田は成田鐵道、佐倉、佐原間の中央を占め新勝寺不動尊の所在地なるを以て參詣者四方より來り旅館、兩側に多く別に一境を爲す銚子は總武線の終點に在りて利根河口に望み漁業、醬油、銚子縮等の名産あり海岸は奇勝多し

茨城縣

茨城縣は常陸の一市十一郡と下總の内三郡を管轄す面積三百八十五方里、人口百二十三萬を有し縣廳は水戸市に在り、水戸市は舊徳川御三家の一なる水戸公の城下にして東西一里八町、南北十五町、人口三萬六千あり市内に常磐神社、同公園等あり交通は常磐線の土浦、平間の要點に當り上野驛へ七十四哩餘、仙臺へ百五十三哩餘、水戸線大田驛へは十二哩餘とす管内の要驛は土浦、石岡、結城等にして潮來、鹿島、磯濱共に古來より著名なり
土浦 は霞ヶ浦西岸にあり土屋氏の舊藩地にて汽船の便ある外に汽車四十二哩にして東京へ達し三十一哩にして水戸に達するを以て百貨集散し商業殷盛にして水戸市に次げる縣下第二の都會なり
潮來 は古來潮來節を以て名高く利根川通ひ汽船の便あり
鹿島 は鹿島神社宮の所在地



成田山



常磐神社

磯濱は大洗海水浴場に近く都人士の遊ぶもの多し

栃木縣

栃木縣は下野の一市八郡を管轄し面積四百二十二方里、人口八十一萬、縣廳は宇都宮市に在り、宇都宮市は舊戸田氏の藩地にして東西一里十二町南北一里二十三町人口三萬五千を有し昔より奥羽其他諸街道の要地たるを以て今も東北線の要驛となり之より日光線を分岐す
足利町 此地は織物の名産地として名高く商業頗る振ひ兩毛線の要驛に當る足利學校の古跡は世に知られ足利公園亦遊ぶべし
栃木町 は兩毛線の要驛にして繭絲麻等の産出に名高し
小山町 舊陸羽街道の要地にして今も東北線と水戸線の分岐點なり



山 四

足尾銅山 渡良瀬川の上にて採銅著名の地なり日光より交通す
日光 上野より九十哩餘、日光鉢石町の畔、大谷川の岸頭に東照宮の靈廟あり美術の淵藪を以て内外に名高く内國人は勿論、外人の日本に來るもの必ず一遊せざるなし附近に名瀑多く又山上に中禪寺湖の勝地あり

門 明 陽 光 日



愛知縣は尾張の一市九郡と三河の一市十郡即ち二國の一圓を管轄す面積三百三十三方里人口百六十萬を有す首都は名古屋にして縣治は此に在り市の東西一里十九町、南北一里十五町人口二十八萬を算し商業工業共に繁榮にして我國にて大阪に次での大都會なり且つ東西兩京の間に在るを以て中京と誇稱するものあり舊徳川の大藩尾張侯の居城を置き此處にして今も東海道の大驛として中央西線及び關西鐵道の分岐點として東京

愛知縣

より伊勢大廟に至るには即ち此より乗換ふ市外名古屋城は金鯢を以て世に知られ今は第三師團司令部たり

武豐町 知多半島の要港にして武豐鐵道線は大府より分岐し武豐に達し水陸の便あるを以て商業極めて盛にして北方半田を控へ酒、醬油の醸造輸出は其第一に居り其他味噌、鹽、木綿等を主とす

熱田町 舊東海道の要驛にして名古屋に接続し此より伊勢桑名驛へ通船し名古屋は却て五十三次に入らず熱田の名特に高し且つ熱田神社は 皇太神を祭り外に八咫の社あり境内宏壯にして必ず一詣すべき處なり

有松町 近隣鳴海と共に木綿織物を産出し有松絞の名世に知らる

岡崎町 徳川家康の發祥地にて今も東海鐵道の驛たり人口二萬

豊橋市 舊名古屋、東海鐵道の驛にして人口二萬二千、三河の首都なり豊川鐵道の分岐點にて豊川稻荷へ近く賽者絶ゆることなし



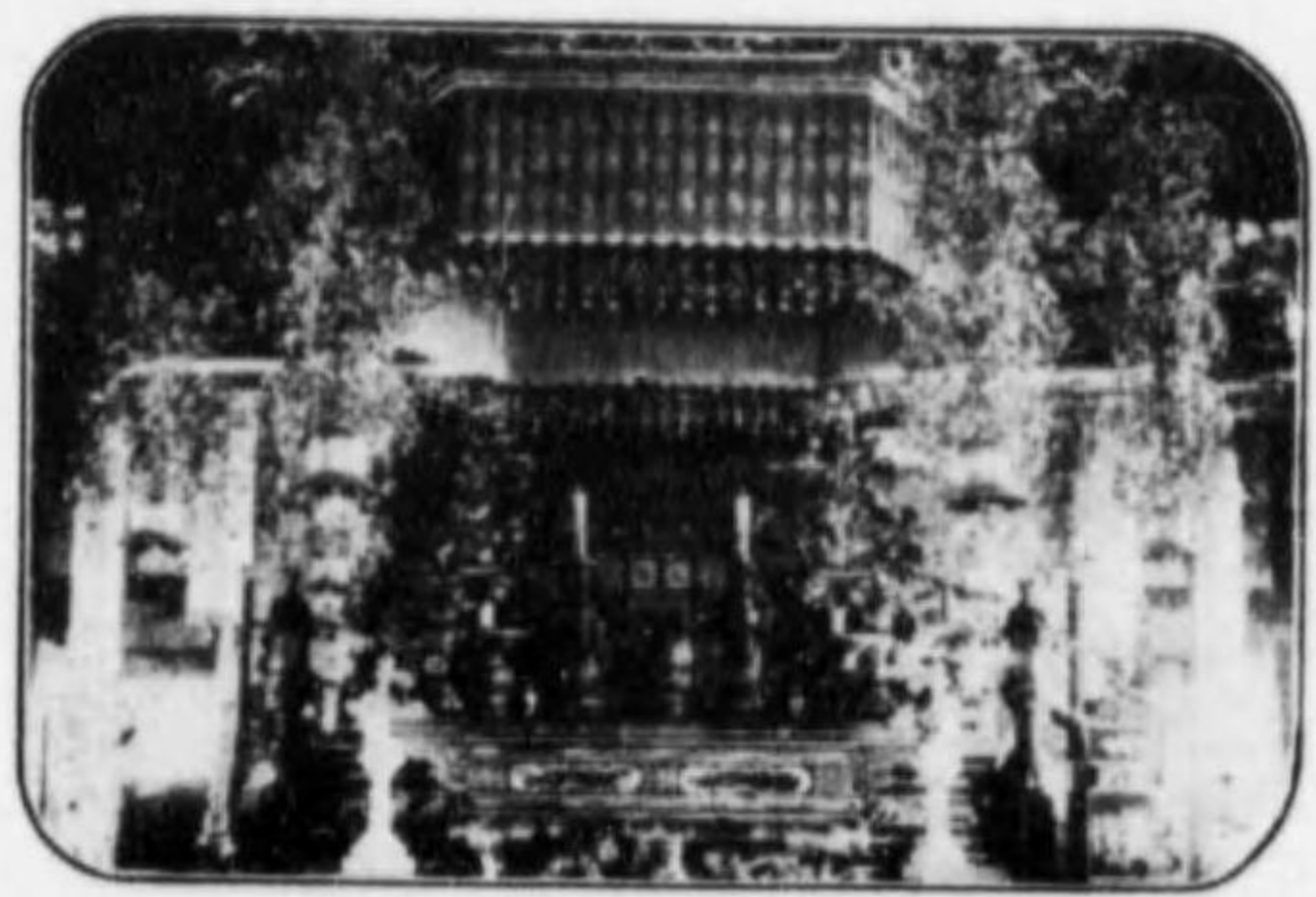
城 屋 古 名

山梨縣

山梨縣は甲斐一國の一市十郡を管轄す面積二萬九千方里人口五十萬を算せり國の首都を甲府市と云ひ縣治は此に在り市の廣さ東西三十二町南北一里六町人口四萬四千を算す中央東線の要驛に當り東京飯田町停車場へ八十哩餘と云ふ郊外なる躑躅ヶ崎は往時武田信玄の城地を構へし處なりと云ふ其他市内に善光寺の別寺甲府城址等あり

共進會と善光寺

韮崎町 駿河及び信濃への交通要路に當り武田勝頼の新府城を構へし處、中央東線の要驛に當れり
鵜澤町 富士川の西岸に在りて東海道へ出づるの要津たり此より下ること十八里にして岩淵驛に出で東海道鐵道に依ることを得べし
上野原町 小佛笹子の間に在り中央東線の最長トンネルを前後に置き甲州街道の要驛にして較々繁榮の地なり
身延山 日蓮宗の名刹久遠寺あることは人の知る處にて東京より行くには先づ中央東線甲府驛より鵜澤に出で富士川を下るを便とす
御嶽 御嶽は甲州の名山なり近時汽車の便を假り東京より登山するもの多し山内勝景の處多く仙娥の瀧等最も知らる東京より一泊程
富士山 富士は駿州と甲州に跨り甲州より登山するを裏口と云ふ中央東線大月を下車し谷村、十日市を経て吉田口に至るを便とす
猿橋 桂川の兩岸相迫て深潭紺碧を爲す處に一橋を掛く日本三橋の一也往時猿猴の藤葛に依りて渡りしと云ふに基く驛名の起る處



身延山



明治四十一年十月十五日印刷
 明治四十一年十月廿二日發行

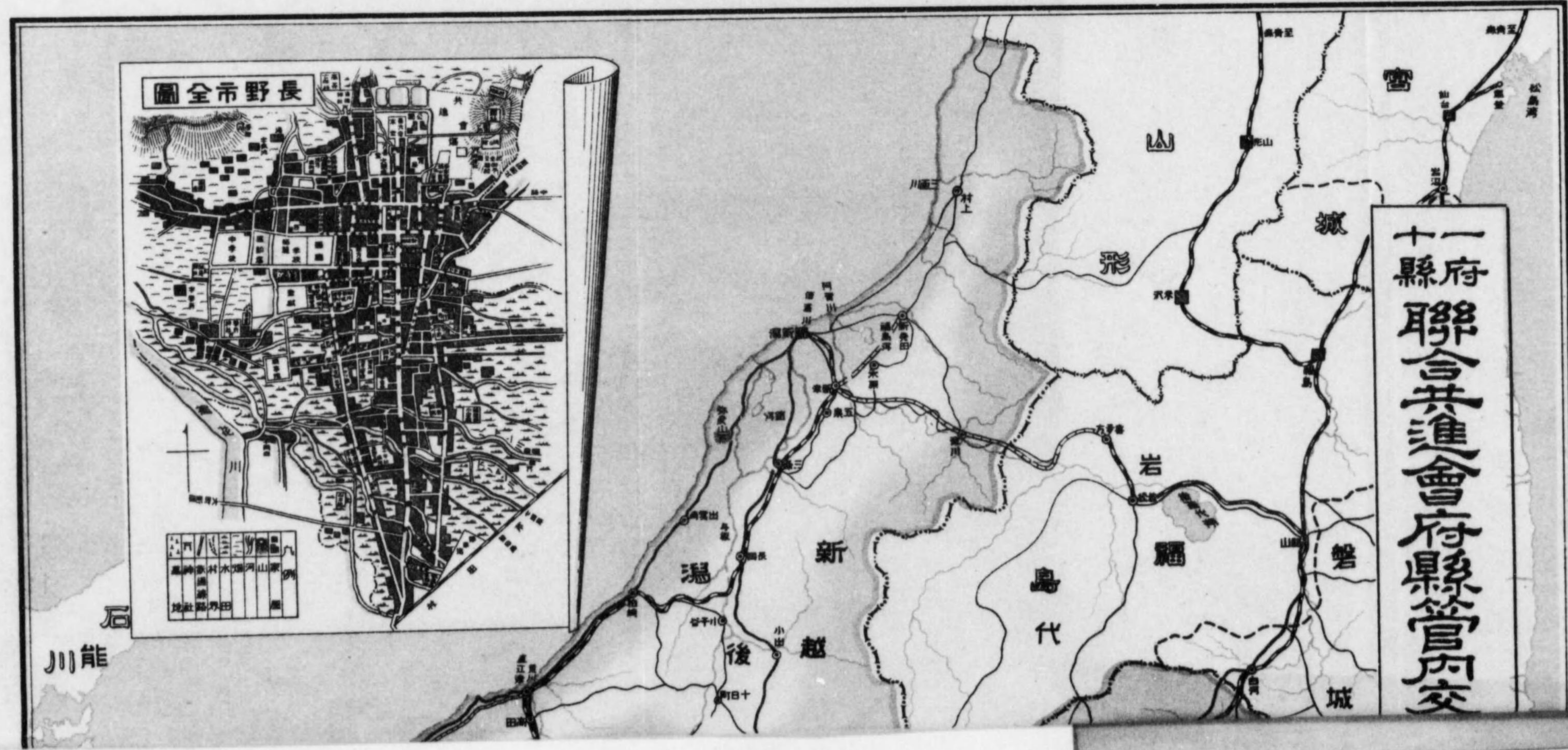
編輯兼 田山 宗 堯

東京市日本橋區本町一丁目

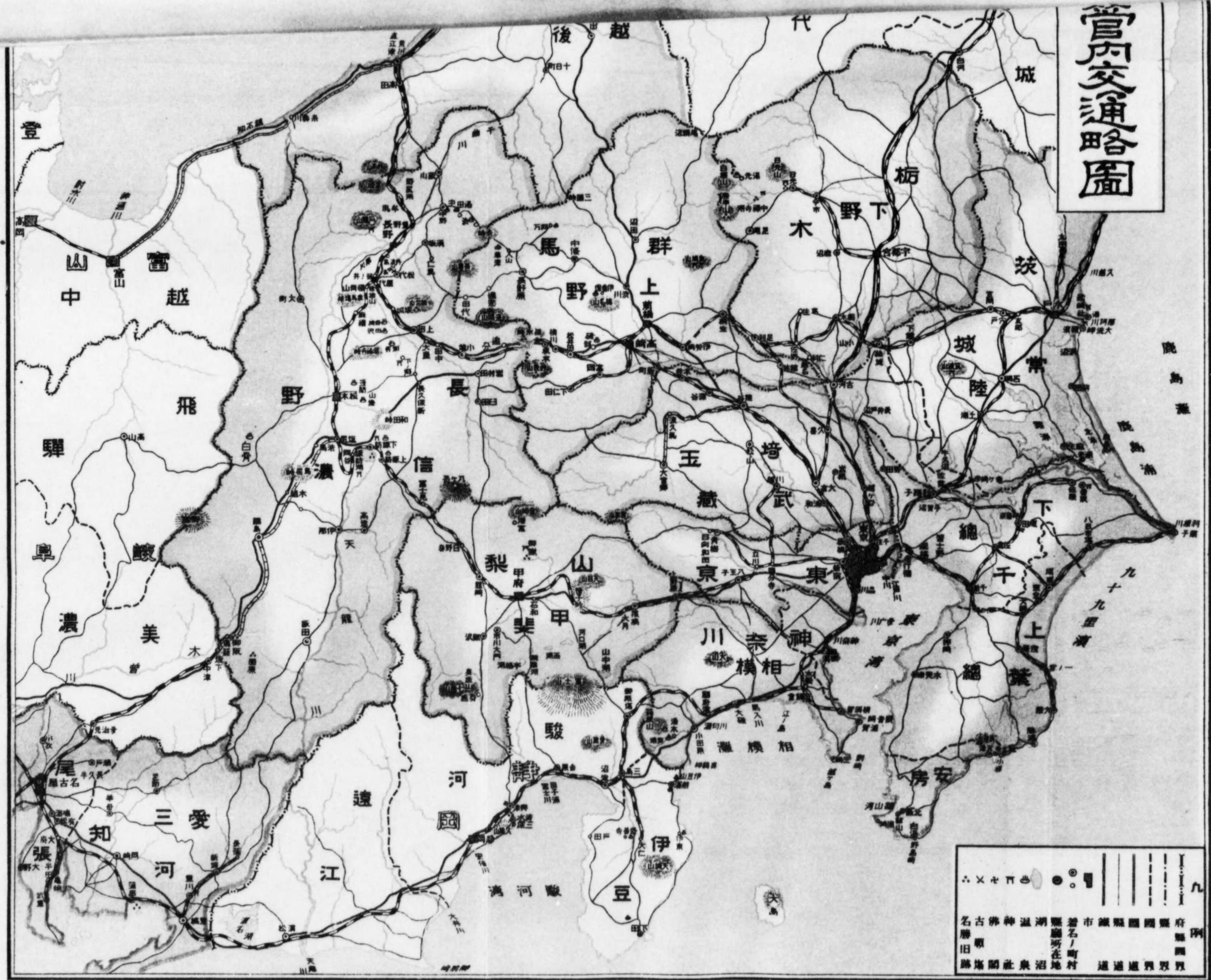
印刷者 神谷 岩 次 郎

東京市日本橋區本町一丁目





管内交通略圖



72
335

